

学園だより

第90号

令和5年3月発行

都城工業高等専門学校
広報委員会



content

- | | | | |
|---------------------|----|------------------|----|
| ●巻頭挨拶 | 1 | ●特集Ⅳ こちら後援会 | 26 |
| ●学内動向 | 2 | ●新旧学生会長挨拶 | 28 |
| ●ようこそ学生相談支援室へ | 3 | ●学内トピックス | 29 |
| ●着任挨拶 | 4 | ●学生表彰 | 33 |
| ●退任挨拶 | 5 | ●高千穂寮トピックス | 35 |
| ●卒業記念・修了記念 | 7 | ●国際交流トピックス | 36 |
| ●特集Ⅰ 高専祭 | 19 | ●都城高専少年少女科学アカデミー | 37 |
| ●特集Ⅱ こちら在校生 | 22 | ●主な就職・進学内定先一覧 | 38 |
| ●特集Ⅲ 拝啓後輩殿(OB・OG通信) | 24 | | |
| 卒業生から後輩へのメッセージ | | | |

令和4年度を振り返って

校長 和田 清



わが国独自の教育システムである高専（KOSEN）制度が誕生して、2022年で60周年を迎えました。日本の高度成長期をはじめ、ものづくりを支える中核的技術者を数多く育成・輩出してきました。本校は3期校ですので、2024年が創立60周年となります。

この節目に行われた全国高専体育大会や各種コンテストにおいて、数多くの学生諸君の活躍がありました。3年ぶりに本格的に開催された九州沖縄地区高専体育大会では、7つの運動部が全国高専体育大会に出場して、水泳部（背泳ぎ：個人）と弓道（団体）が優勝、その成果が認められ県知事から宮崎県学生栄誉賞を授与されました。また、全国高専プロコン自由部門では、特別賞と企業賞を獲得し、ディープラーニングコンテスト DCON2023（事業性を競うコンテスト）にも推薦されました。全国高専ロボコンでも、特別賞とアイデア倒れ賞のダブル受賞となり、デザコンの空間デザイン部門では、ファイナルラウンドのベスト10に進出し健闘しました。さらに、第1回高専GCON2022（女子学生を中心とした技術開発・アイデアの提案）に本選出場して、「60周年記念賞」を受賞しました。これらの他にも、建築甲子園の優秀賞、宅地建物取引士、2級建築士の合格など、校長室にて健闘を讃えることが多く、学生諸君の笑顔に接することができました。

高専祭では、ibipio（今を生きる）がテーマとなり、コロナ禍の試練を乗り越えて、共感や連帯感、本校や郷土への愛着や帰属意識などを考える機会となりました。学生諸君のずっと続いていく長い時間を大切にするという意味で、未だ何かを成し遂げていなくても、今生きていることで他者に貢献していることを意図したメッセージでした。後夜祭の花火大会では、コロナ禍で制約された種々の行動を一人ひとりが振り返り、次の新たな思いへ繋げてくれたと思います。

皆さんは、学生として見守られている部分と、社会人になる準備段階として見られている部分があります。社会に出るときは一人であり、チーム皆で成し遂げることも重要ですが、自分自身が本当にどのように社会に出て行くかを常に意識しながら切磋琢磨してほしいと思います。

高専教育は、わが国が創設したユニークな高等教育機

関です。高専のよい点は、頭の柔らかい時期：15歳からの創造教育にあり、理論と実験実習を繰り返し、頭と身体を使って理解して、社会課題を解決するアイデアや技術開発に繋げることなどが期待されています。技術やサイエンスを使って、自分の思いやアイデアを形にするコンテストなどにより、STEAM教育のE（Engineering：工学）を担っています。これらを通して、多様な価値観により、SDGsからイノベーション、キャリア形成まで、そのプロセスすべてが「学び」になっています。高専は15～22歳の学生がいます。先輩を見て目標を高く設定することや、教員と学生の距離間の近さなどにより、学生のマインドの醸成や能力を伸ばすための創意工夫を期待しています。

現在、社会全体で技術を使ってDX（デジタルトランスフォーメーション）などに取り組んでおり、環境配慮にも新技術が求められています。新しい社会の変革の中にあってそれを支えているのは技術であり、その一部を高専教育が担っています。15歳の学生に「何かできるかもしれない」というマインドを促し、主に国立高専51校と切磋琢磨しながら、そのネットワークを活用した人「財」育成の場となっています。

従来の大量生産・大量消費の時代から、現在は本当に必要な性能など、より世の中に役立つことやwell-beingを意識した「ものづくり」や「ことづくり」の教育が重要となっています。高専創設60周年を機に、今後、技術、デザイン、起業家精神を三位一体として学べる場にしたいと考えています。高専生は様々な経験を通して、科学技術が進化し続けていることを体感しています。将来は技術士や建築士として、生涯「学び続ける」という気持ちを大切に自己研鑽してほしいと思います。

今年度の終わりに際して、特に、卒業および修了される方々には、苦楽を共にした同窓生との絆を思い出し、新しい社会で大いなる夢を持って、様々なことに気づき学び続ける意思を持ち続けてください。すべての結果には過程があります。今の生き方が10年後に繋がります。数多くのよい出会いに恵まれることを願っています。

最後に、保護者の皆様には、改めて本校の教育・研究活動へのご理解とご協力に感謝を申し上げますとともに、今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

学内動向

教務主事 松崎 賜

教務の現場から



一年を振り返り、特筆すべきは、エジプトからの来校・オープンキャンパスなど、学生さんの対応・説明が高く評価されたこと。皆さんの実力の証明です。

教務関係では、他にもOECD学習到達度テストがあった、数値データサイエンスAIプログラムに申請し認定された、中学生への進学説明も何回も行った、機構からの要請で教育の質保証計画を立てて実行に入った、監事監査もあった。感染症対策も、関係各位の協力を得て次々と、捻出・・・

こんな時は、4年生の授業で取り上げた『方法序説』の、問題の分析、順序立てた検討、作業の枚挙と見直し、蓋然性の高さに基づく判断、決定し難い場合どれかを選択して迷わない、それそのまま。昔の賢人が言ったそのままなんですね、業務でも何でも。

また、『莊子』には、扉の回転軸の位置にいれば、どのような方面にも応じていける、とある。実際、学生さんや教員の方々に囲まれて、さまざまな意見が飛び交うのを静かに聴いていると、直観が生じます。すべきこと、その方法が、閃きます。さらに、その回転軸に、自分かわりに誰かが立ってくれたのを逃さず感知した瞬間、仕事は最高に楽しい。

一すべてはいま、そして将来のいまのために—

寮務主事 田中 寿

変わりゆく寮の景色



令和4年4月より寮務主事を拝命しました電気情報工学科の田中です。

今年度もコロナ禍での開寮となりましたが、可能な限り学校を閉じずに対面授業を行う学校方針のもと、寮においても感染対策を行いながら運営することとなりました。

現在、寮は建替え工事の真っ只中にあり、その様子を紹介します。4月より新管理棟の利用が開始となりました。新管理棟の西側に位置していた研修棟と留学生棟は取り壊され、10月に駐車場が整備されました。旧女子第2棟は取り壊され、同じ場所に新築される予定です。旧女子第1棟は新たに第1棟として令和5年3月に竣工予定です。

寮行事については、寮生会を中心に取り組むことができました。寮祭は1ヶ月ほど延期し、寮生のみでの参加となりましたが、寮マッチの代替企画と合わせて実施しました。夜間ハイクの代替イベントとして、ワールドカップビンゴ大会を実施しました。寮生総会は前期後期ともに体育館で実施することができ、後期には新寮生会役員が選出されました。

寮の改築はあと2年ほど継続する予定です。コロナ禍ということもあり、制約がある中で培った共同生活の経験が卒業後にも生かされることを期待します。

学生主事 永松 幸一

新たに確実に 前へ進む学校生活



今年度を振り返る時期となりましたが、コロナ禍において、様々な対策及び対応を学内で実施しながら、対面授業及び課外活動等を継続しております。学内で一緒に過ごす学生諸君、日々学生を支えていただいている保護者の皆様、関係の皆様改めて感謝申し上げます。

前期当初は、学内も落ち着かない状況ではありましたが、課外活動は概ね継続でき、多くの成果を収めているところです（県高校総体：水泳男子個人優勝、地区高専大会：女子バレーボール・女子テニス・女子剣道・男子弓道団体・水泳男子個人・女子テニス個人で優勝、全国高専大会：水泳男子個人・男子弓道団体で優勝等）。また、地区高専大会バスケットボール・卓球・剣道・硬式野球の4競技を本校が主管し、当該部活動に所属する学生やその保護者の方々、地域の競技団体や高校生補助員の方々に協力いただきました。

後期に入り、昨年度の開催及び準備の経験を踏まえ、体育競技会では応援演舞のみ5年生保護者の皆様に見ていただき、高専祭では後援会役員の皆様によるカレーうどんの提供がありました。高専祭のフィナーレでは打ち上げ花火を行うなど、学生の思いを形にすることもできました。また、プロコン・ロボコンでの特別賞、同好会や研究室等で参加したコンテスト優秀賞の獲得など、課外活動や学校行事において、学生の奮闘する姿を数多く目の当たりにする1年となりました。

専攻科長 清山 史朗

JABEE継続審査



本校の「生産デザイン工学」プログラムは、2004年に日本技術者認定機構に認定され、昨年度に継続審査を受ける予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、本年度の審査となりました。本来であれば、審査員が来校し、授業見学、施設見学、面談等を行う予定でしたが、各種面談などがオンラインで三日間に渡り実施され、その結果、すべての項目でS判定（最も良い）を頂き、優れている点として以下の点が指摘されました。

- 1) 創造デザイン演習では、テーマ選定から設計、製作、評価、発表までの「ものづくり」に関して取り組んでいる。
- 2) 農林畜産業と教育技術を融合した農工連携を進め、複数教育機関と共同で「農学概論」を共通選択科目として開講している。
- 3) 英語教育に関しては、独自の英語教育を実施している。
- 4) PDCAサイクルがプログラム全体として十分に考慮され、うまく機能している。
- 5) 教員間では授業参観を行い授業の工夫、授業のポイントを授業内に反映させている。
- 6) 技術者像やアドミッションポリシーをよく理解し、ポートフォリオを活用し、学習の振り返りや全体的な目標を再認識している。

ご協力頂いた皆様に感謝するとともに、今後もより良い教育プログラムを展開して参ります。

ようこそ学生相談支援室へ

学生相談支援室長挨拶

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために学校説明会を実施できませんでした。この紙面を借りて学生相談支援室の活動について説明します。

【学生相談支援室のスタッフ】学生相談支援室の第1の業務は、学生の相談を受けることです。相談スタッフは心の専門家と言われる臨床心理士2名が、スクールカウンセラーとして週に各1日程度勤務しています。そして、福祉の観点から「子どもの貧困」「ヤングケアラー」「不登校」などの問題解決に伴走型の支援を行う社会福祉士のスクールソーシャルワーカー1名が専門職員として相談や家庭訪問などの業務に当たっています。教員による相談員は、女性教員とOB教員の2名で学生との面談及び学習面の支援を行っています。学生相談支援室の窓口には、保健室の看護師2名があたっています。以上の室長を含めた8名が学生相談支援室のスタッフとして活動しています。

【相談について】年度ごとの相談件数(延数)は、(H30)223件、(R1)296件、(R2)379件、(R3)586件であり、近年増加しています。15歳から22歳までの学生が過ごす7年間は、人生の中でも心と身体が成長し、進路選択や人間関係・生活環境の変化などにより、ストレスや悩みが発生して当然の時期です。身近な相談できる人・場所を確保しておくことはたいへん重要であると考えます。相談件数が増加していることは、身近な相談室に近づいている良い傾向であると考えています。

また、本校の学生相談支援室は、学生の相談のみならず、「子育て相談」など保護者の相談も受け付けています。「子供とどのように接してよいか困っている。」「子供が反抗していることを聞きません。子供の行動が心配です。」など、ご家庭からの目線での心配があれば、遠慮なく学生相談支援室をご利用ください。相談内容については、固く秘密を守りますので安心して相談ください。

我が国及び高専機構では、若者の自死(未遂含む)や失踪のゼロを目指して学生支援に取り組んでいます。本校では、「こころと体の健康調査」「学校適応感尺度調査」のアンケートを学生に実施し、回答結果をもとに気がかりな学生には、スクールカウンセラーとの面談を勧めています。諸事情で対面の面談が難しいケースは、Teamsのテレビ会議システムを使用して面談を行うこともできます。

【障がいのある学生への対応】我が国では、平成28年に障害者差別解消法が施行されました。障がいを理由とする不当な差別的取り扱いの禁止と、社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮の提供(以下「合理的配慮」とします)が義務化されました。大学と同じく高等教育機関である高専における合理的配慮は、「物理的環境への配慮」「意思疎通における配慮」「ルール・慣行の柔軟な変更」の3つの観点が考えられます。

(1) 物理的環境への配慮の一例としては、「段差の解消などの移動支援」「離席が必要な学生の座席位置の配慮」「車いす利用者に対する教室での配慮」などがあります。

(2) 意思疎通における配慮の一例としては、「手話通訳、パソコンノートテイク、補聴システムの使用」「言葉の聞き取りや理解・発声・発語に困難を示す学生への対応」「教科書・教材への文字情報へのアクセシビリティに配慮する(点字、読み上げソフトの使用)」などがあります。

(3) ルール・慣行の柔軟な変更の一例としては、「感覚の過敏性がある学生に、サングラス、ノイズキャンセリングヘッドフォン、服装及び着席位置の配慮を認める」「治療のために学習空白が生じる学生に対し、補講及び遠隔授業などによる学習機会の保障」「体調に応じてレポート等の提出期限を延長する」などがあります。

以上のような合理的配慮は、学生・保護者から「合理的配慮が必要です」という申し出があった場合に、学内で対応可能な合理的配慮であるか審議されます。そして、配慮依頼案が可決された後に支援が開始されます。お困りの場合は、まずはクラス担任あるいは学生相談支援室を「合理的配慮の窓口」として、ご利用・ご相談ください。

紙面の関係でお伝えできませんでしたが、他にも学校生活・日常生活のどのような相談でも承ります。問題解決の第一歩は、「まずは相談・学生相談支援室へ行ってみよう」です。我々は「ようこそ学生相談支援室へ」の気持ちでお待ちしております。



学生相談支援室長
武田誠司

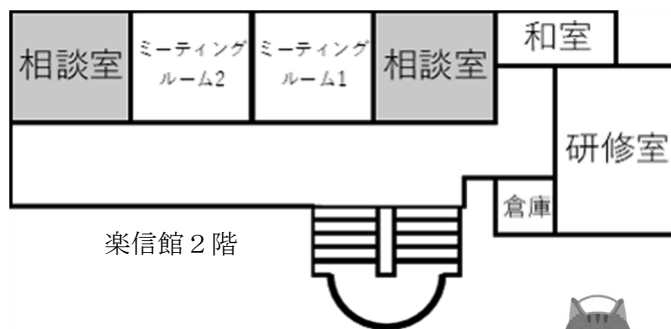
学生相談支援室の利用について

毎日の生活の中で出会う様々な問題や悩みについて、相談室スタッフと一緒に話し合ってみましょう。相談の申込は以下の方法で受け付けています。

- ・直接スタッフへ：武田室長、看護師へ
- ・電話による申込：0986-47-1156
- ・Eメールによる申込：soudan@cc.miyakonojo-nct.ac.jp

勉強、進路、交友関係、クラブ活動、自分の性格など悩み多い学生生活ですが、誰かに聞いてもらうだけでも気持ちが楽になるものです。相談内容の秘密は厳重に守ります。安心して相談に来てください。

相談室の場所はこちら



着任挨拶

着任のご挨拶

令和4年4月に総務課に着任しました黒木浩三と申します。宮崎大学との人事交流で本校に勤務することになりました。

総務課では財務担当補佐という立場で予算業務を担当しております。昨今の厳しい財政状況により、高専運営においても定められた予算で効率的な運営を行うことが求められておりますが、一方で、技術系の教育研究では相応の費用を掛けなければ満足な成果を上げることが難しい面があると考えています。

このような中で財政面から学校運営を支えるという業務に携わり、大きな責任を感じております。

高専の学生は、専門分野の高度な知識を身に付けたいという高い意識を持って、期待を胸に入学した学生が多いと思います。そんな学生たちに財政的な面で期待を裏切らないように、できる限りのことをしてあげたいと、廊下ですれ違いざまに挨拶をしてくる学生を見るたびにそう思っております。

定められた任期であります、在任中は都城での生活を公私ともに充実したものにしたいと考えております。至らない点多々あるかと思われそうですがどうぞよろしくお願い致します。



総務課課長補佐
(財務担当)
黒木 浩三

着任挨拶

令和4年4月に総務課財務係に着任しました櫻井友哉と申します。

昨年度の12月、都城高専に契約係として着任し、4月から新たに財務係として業務に励んでおります。昨年度の11月までは宮崎県の一般企業で営業職として働いておりました。営業職から事務職へ働き方が大きく変わりましたが、周りの方々に支えられ大変充実した日々を過ごしております。

総務課財務係では、学納金や外部資金管理など収入に関する業務を行っております。学校財源に大きく関わる業務なので常に緊張感を持ちながら何事にも慎重に取り組んでいきたいと思っております。

出身は山口県なのですが、前職の転勤で約5年前に宮崎県に移住してきました。宮崎県における食のおいしさ・気候の温かさ・人々の温かさに惚れこみ、宮崎県に定住していきたいと思うようになりました。

都城高専に着任して、早くも1年が経ちました。契約係と財務係を経験し、徐々に業務の流れ・お金の流れを掴んできました。まだまだ不慣れなことばかりで、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、皆さまのお役に立てるよう努めて参ります。どうぞ宜しくお願い致します。



総務課財務係
櫻井 友哉

着任挨拶

令和4年4月に着任しました看護師の前田早苗と申します。

3月までは病院に勤務していたため、はじめは不慣れな事も多く、ご迷惑をおかけすることも多々ありましたが、教職員の皆さま、学生の皆さんに支えていただきながら早くも1年が経とうとしています。

保健室には毎日たくさんの学生が来てくれます。怪我や、体調不良時はもちろんの事ですが、それ以外にも話をしに来たり、空き時間に友人と過ごしたりと様々です。そして、本校の卒業生もよく来てくれております。仕事で来たついでで…、実家に帰ってきたから…と、近況報告に来てくれる姿をみると、学生にとって保健室とはやはりそれだけ存在意義の高い場所であるとともに、長年尽力をいただき定年を迎えられた森岡看護師がこれまで、学生のことを第一に考え、たくさんの関わりを持ってこられたからこそであり、学生と真摯に対応していくことが信頼関係を築いていくことである、ということを実感する1年でもありました。

まだまだ未熟な面もあり、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、学生にとって保健室が「ほっとできる場所」になるように心がけながら努力したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



看護師
前田 早苗

退任挨拶

第二の社会人人生＝高専の教員を終えるにあたって

2010年4月に本校に着任して2021年3月に退職。その後、2年間の再雇用があり、都合13年間お世話になりました。民間企業に30年近く務めた後の高専勤務だったので、学生の教育・指導や校務等に不安はありましたが、教職員の方々に支えていただき、また学生からも多くのことを学ぶことができました。そのおかげで、第二の社会人人生を有意義に過ごしながら今日という日を迎えられることに、心より感謝いたします。

在職中は私の希望もあり、4・5年の担任を3回、専攻主任を1回担当し、学生の卒業後の進路に向けた指導をすることができました。講義や実験では、暗記やコピペではなく、実務で使える基礎力を身につけてほしいと願いながら教育してきたつもりです。研究では、ライフワークである放電プラズマ、色彩科学、光源を深めただけでなく、卒業研究をとおして光CTや気象衛星の信号受信機等、未経験の分野にも取り組むことができました。課外活動では、ロボット製作局の顧問となり、講義や実験よりもはるかに先を行く技術を学生が主体的に学び、お互いに協力しながら、より完成度の高いロボットに仕上げていく姿を見て、とても頼もしく思い、心の中で「Bravo!」と叫びました。夢や目標に向かって努力し続ける姿勢は、退職後も大事にしていきたいと思います。

最後になりましたが、変化の激しいこの現代社会において、都城高専が発展し続けることを祈念し、退任の挨拶といたします。



電気情報工学科
御園 勝秀

退職にあたって

1976年4月に着任し、2018年3月に退職、その後5年間の再雇用があり47年間と半世紀近くの勤務となりました。長い間、本校の教育にたずさわることができ無事に過ごせたことを大変うれしく思い、これまでご指導ご支援いただいた多くの教職員の皆様や学生に深く感謝いたします。

学生とのかかわりでは、卒業研究や実験実習はもとより、高専祭での研究発表の制作物はいつも、実際に人が通る門やゲート、人が渡れる橋、人が座ったり寝たりする空間といった大きいものをその時の社会情勢に添ってデザイン設計し、木材や竹、ダンボール・ボール紙、空き缶といった各種の材料を使って作るといった学生の創造力や実行力、クラスの団結力の大きさに感心し驚くばかりでした。また、学生相互の研鑽と理解、生活環境を構成する総合技術の習得するための専門力やデザイン力をはぐくむため開催されている全国デザコンへ参加する学生は、毎年変わるテーマに沿って、デザインや構造を考え、試行錯誤を繰り返して納得いく作品に仕上げ参加していく姿に感心していました。優秀賞や審査員特別賞などを獲得した大会もありよき思い出となっています。学生と一緒に活動、参加できたことに感謝いたします。

最後になりますが、都城高専の益々の発展と教職員、学生の皆さんが活躍されることを祈念して、退職の挨拶とさせていただきます。本当に長い間お世話になりました。



技術支援センター
奥野 守人



退任挨拶

退職挨拶

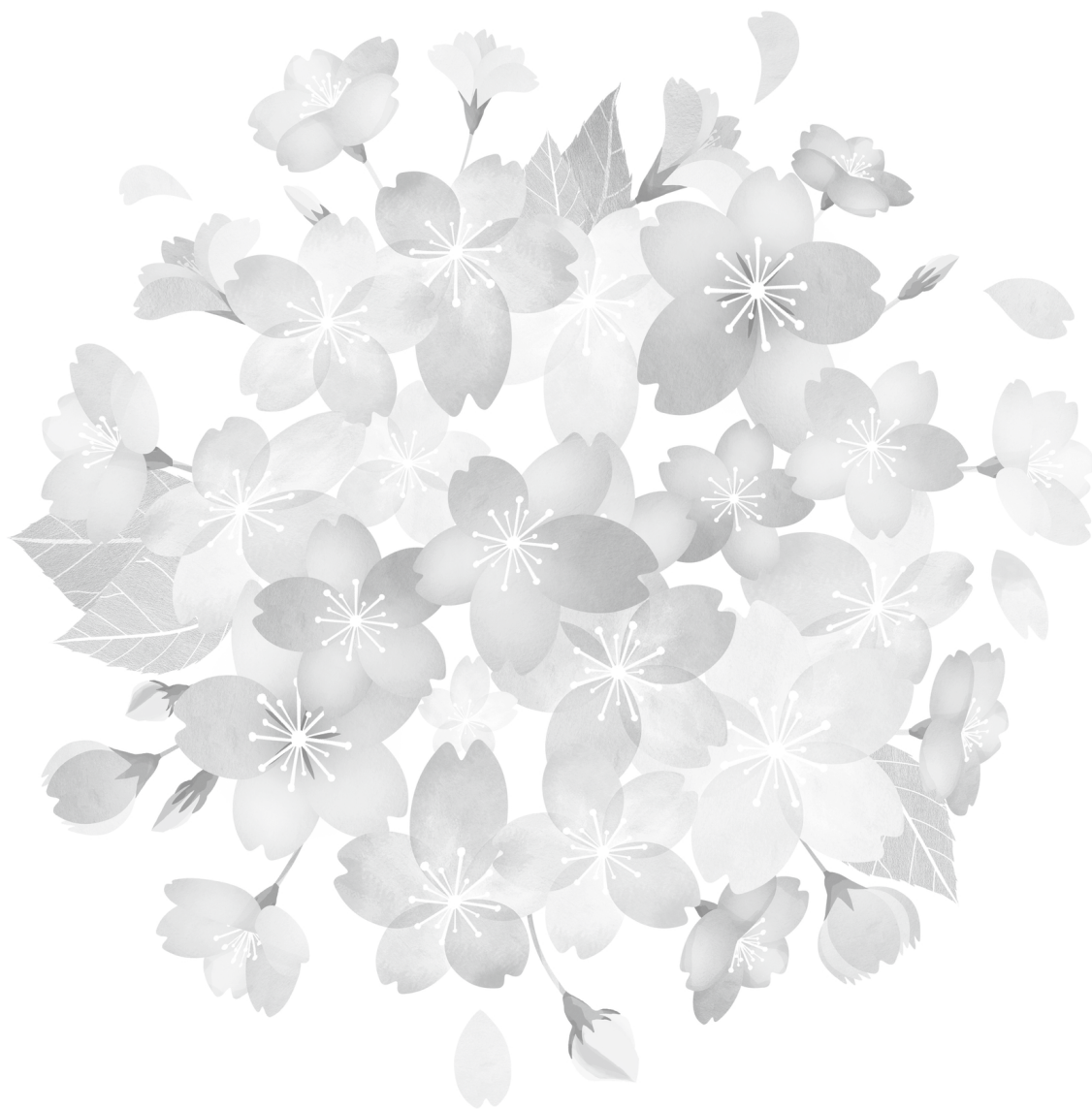
令和2年3月1日から事務補佐員として学生課寮務係に採用になり、3年間という短い間ではありましたが、3月末で退職することとなりました。在職中は新型コロナウイルス感染症蔓延のなか、感染予防対策をしながら学生に関わるお仕事をさせて頂いて、学生が少しでも不安を感じることなく、寮生活が出来るようお手伝い出来たかは少々不安ではありますが、おかげさまでこの日を迎えることができるのも、皆様の温かいご支援とご厚情の賜りと心より厚く感謝しております。

これからは都城高専で出会った多くのすばらしい方々との良き経験に感謝しながら、より一層充実した人生を歩んでまいりたいと思っております。

皆様の健康とご多幸を心よりお祈り申し上げまして、退職のご挨拶とさせていただきます。
本当にありがとうございました。



学生課寮務係
首藤 洋子



卒業記念 ～機械工学科～

今後の活躍を祈念して

5年担任 白岩 寛之

機械工学科5年生の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。また、ご家族の皆様にも心よりお祝い申し上げます。

2年前、新型コロナウイルス感染症の先行きがまったく見通せない中で、感染拡大による登校制限等により、皆さんの勉学や学校行事、また何より4・5年次で最も重要な就職・進学活動に大きな影響が出ないことを祈りながら、担任を開始したことが昨日のこのように思い出されます。

勉学については、3年次に引き続き4年次もオンデマンド形式の遠隔授業が実施された期間があり、そうした中で定期試験対応などに苦慮した学生も多かったことと思います。遠隔授業には、人との接触を抑制することによる新型コロナウイルスへの感染リスクの低減や、ある程度自分のペースで勉学に取り組むことができ、計画的・効率的に時間を使えるといったメリットがあった反面、集中力を保つことの難しさや質問などのし難さといったデメリットもあったことと思います。しかし、今後ますます、在宅勤務をはじめとした様々な働き方を許容する社会に進展していくと思いますので、遠隔授業での経験はこれからの大きな糧になるものと思います。

学校行事については、十分な感染対策を講じながら、コロナ禍に適応した形式でその多くが実施されました。体育競技会では、各種競技におけるクラスの団結や他のクラスを圧倒する運動神経や俊足に驚かされました。5年次の応援演舞では、機械工学科では近年稀にみる100名に迫る多くの応援団員を集め、非常に統率の取れた迫力ある演舞を披露しました。応援団をまとめた団長や副団長をはじめ、応援団員に拍手を送りたいと思います。余談ですが、私をモデルにした看板は恥ずかしかったのですが、私の家族や知人には大変好評でした。また、4年次の文化祭における研究発表では、「新型コロナウイルス感染症対策」を共通テーマとして、コロナ禍における食事の際などに普及したパーティションの、声の聞こえづらさや表情の見えづらさといった多くの課題を解決に導く「Air Partition」の研究に取り組みました。試作と実験を繰り返し、多くの学生が水を得た魚のごとく積極的に活動する姿を見ることができ、非常に頼もしく感じたものです。成果物とそのプレゼンが相まって、最優秀賞とプレゼンテーション賞の両方を受賞できたことは、今後の大きな自信に繋がったものと思います。

就職・進学活動については、まず4年次当初に本校機械工学科出身の3名の講師を招いて実施した校内研修では、進路選択に向けて気持ちを切り替える大きなきっかけになった学生も多かったことと思います。次いで主に夏季休業期間に実施するインターンシップには、クラスの9割以上の学生が申し込みを行いました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、中止や延期、オンライン実施への切り替え等が相次ぎ、結果的に

にクラスの半数ほどの参加に留まりました。また、学年末の研修旅行も直前で中止せざるを得なくなりました。進路選択に当たって重要なこれらのイベントが制限されたことは、就職・進学活動に少なからぬ影響を与えたことと思います。また、様々変化する社会情勢の中で、今年度は特にコロナ禍で多数の企業や大学がWeb選考を実施するなど、対応に苦慮することが多々あったかと思いますが、各人が誠実に就職・進学活動に取り組みました。皆さんがアフターコロナないしウィズコロナの社会構築に貢献できる技術者に成長されることを期待しています。

高専では知識や技術のみならず、クラスメイトや部活動のメンバー、教職員などの他者との関係において、コミュニケーション能力や協調性など自己を形成する様々な能力が育まれたことと思います。これまでお世話になった多くの方々への感謝の気持ちを忘れずに、高専で培った知識と技術を基礎として、日々の研鑽を怠らず、まさに新しい時代の担い手として、何事にも情熱を持って取り組み、今後大いに活躍されることを心より祈念いたします。



卒業おめでとう

5年担任 小森 雅和

皆さん卒業おめでとうございます。皆さんは、新型コロナウイルスの流行、いわゆるコロナ禍が3年生の頃に起こり、5年生になっても続く中、様々な困難を乗り越え卒業することができました。3年生の頃は、対面授業が難しい状況であることから遠隔授業が始まりました。これまで、経験したことのない授業形態で戸惑ったことかと思いません。しかしながら、皆さんは最終的に遠隔授業システムを有効に使っていました。4年生の頃は、コロナ禍の中のインターンシップを経験しました。コロナ禍ということで、オンラインによるインターンシップを実施する企業が多く、通常と異なる体験となりました。5年生では、昨年引き続きコロナ禍の中での進学・就職活動となりました。このように、これまでの通常と異なる困難な状況下においてもそれを乗り越え卒業にたどり着きました。コロナ禍の影響から工場見学旅行などの行事が行えず思い出作りという点では満足できなかったかもしれませんが、様々な困難を乗り越え卒業する皆さんに改めておめでとうと言いたいと思います。

皆さんの担任を4年、5年と2年間したのですが、私は低学年の授業を持っていないことから、4年生の始業式の時がある意味初めてまともに顔を合わせたことになるかと思えます。皆さんは最初「え！誰、この人」と思ったかもしれません。私も初めての対面といえるのと平成26、27年以來の4、5年担任でしたので、大丈夫かなと心配もありました。また、コロナ禍の影響で皆さんマスクをしているので、最初誰が誰なのか分かりづらく、その点も大丈夫かなと思っておりました。しかし、何とか皆さんとここまでこれでホッとしています。3回目の進学・就職担当でもありましたが、前回はそれまでの就職協定から変更があった年であるのだろうか心配だったのですが、今回はコロナ禍ということでやはり今度の進学・就職活動もどうなるのだろうか心配でした。私としては、なぜか大変な時期に進学・就職担当になってしまうと個人的には思っています。4年生の始業式から何とか対面での授業ができることになり、このままコロナ禍が終息に向かってくれないかと当時は思っていました。

4年生は来年度の進学・就職活動の準備期間といっても

いいかと思う時期です。そのため、インターンシップは一つの良い経験となると思います。参加する皆さんが対面で参加することができればいいなと内心思っていたのですが、先に述べましたようにコロナ禍の影響で多くの企業がオンラインによる実施になってしまいました。そんな通常とは異なる実施形態でも参加した皆さんはやり切りました。4年生の年末くらいから年明けの3月くらいまで、企業の方が求人関係で来校され情報交換するのですが、お話を聞くと状況としては例年と変わりないくらいである意味ホッとしていました。年明けの3月に求人票が解禁となり、ある意味ここから皆さんが活動開始となりました。応募の際には、私が前回担当したときみたいに書類を提出してスタートではなく、マイページ登録してエントリーして、皆さんに直接連絡が来るパターンも多かったように思います。また、コロナ禍の影響でオンラインによる面接等の場合があり、皆さん戸惑いや苦勞があったかと思えます。しかしながら、皆さんやり遂げ進学先、就職先を決定することができました。



送り出す側としていつも思うのは、卒業生が卒業後の人生において様々な困難にぶつかるかもしれませんが、最終的に大過なく過ごしてくれていればということです。皆さんはコロナ禍など在学中に様々な困難に直面したかと思えます。しかし、それらを乗り越え卒業までたどり着きました。ここ最近、ロシアによるウクライナ侵攻やそれに伴う食糧問題などが起こり、原油高、物価の上昇など世の中に様々なことが起こっています。これからの皆さんの長い人生においてプライベートなことから世の中の出来事まで様々な変化や困難があるかもしれません。しかし、皆さんが学生時代の経験を生かして見事乗り越えてくれることを信じています。なんか、取り留めない文章を書きましたが、最後にもう一度、皆さん卒業おめでとう。

卒業によせて

5年担任 福留 功博

物質工学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆さまにも併せて心よりお祝い申し上げます。4・5年生次の担任を務めました。この二年間、世界的ビックイベントがありました。2021年夏にはコロナ禍により延期となっていた東京オリンピック2020、2022初めには冬季オリンピック、そして、記憶に新しいFIFAワールドカップカタール2022。これらをテレビ越しに観戦し、思ったことは、人は『成功』より『失敗』に学ぶことが多いということです。ワールドカップでは、非常に厳しいグループステージを強豪ドイツ、スペインを破り首位で決勝トーナメントに進みました。二十数年前の「ドーハの悲劇」は、「歓喜」に変わったのです。これは、その間、長い時間をかけて日本サッカー界が総力で取り組んだ賜物です。日本は戦後、大きな経済成長を成し、特に『技術立国』ということが言われ、丁度、並行して全国の高専が誕生しました。その後、米国に次ぐ経済大国となりました。まさに、これも戦後を日本人の総力で種々、取り組んだ賜物です。今、日本は米国、中国に次ぎ3番目の経済大国です。世界的に取り組まなければならない問題も環境問題をはじめ多くあり

ます。このような場面で高専生の活躍する場面は多様化してきましたが、これまで以上に技術者として貢献しなければなりません。要は数十年後の日本は確実に皆さんの総力によるものなのです。大いに期待しています。



皆さんは3年次からこれまでコロナ禍の3年間を過ごしてきました。思いどおりの学生生活を送ることができなかったと思っている学生もいるかもしれませんが、どうか物事のネガティブな側面を見るのではなく、ポジティブな側面を見て下さい。コロナ禍前の学生さんが経験することのなかったものから何かを得ることができた筈です。考え次第で一見、ネガティブな要素も最大のチャンスにつながることもあります。いや、是非、コロナ禍での経験を活かし、様々な意味で強い技術者へと成長して下さい。皆さんの華々しいご活躍を心より祈念いたします。



心配するな、大丈夫、なんとかなる

5年担任 浅野 浩平

建築学科5年のみなさん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様におかれましても、心よりお祝い申し上げます。

私が高専の教員に就いてから初めてクラス担任というものを務めさせていただきました。何分、すべてが初めての業務でしたので、何をどうやってどのように段取りしたら良いのかもわからず、その場しのぎで誤魔化しながら担任をしていたので、気付いてみたら、あっという間に2年が過ぎてしまいました。クラスのみなさんには大変ご迷惑をお掛けした事だろうと思います。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

ピーク時と比べれば幾分か下火になってきた新型コロナウイルスですが、何をすることもこの憎きウイルスのせいでみなさんの貴重な学生生活に制限がかけられてきました。今でこそ、ほぼ対面授業に切り替わりましたが、4年時は対面だったり遠隔だったり、非常に煩わしいと思った学生さんも少なくなかったのではないのでしょうか？（私はと言うと、遠隔授業用の授業動画を作成する際、録画ボタンを押し忘れたまま60分以上気付かず、深夜の研究室で発狂したことが度々ありました。）インターンシップや就職活動についても、一部オンラインで実施され、そのような状況にも関わらずクラスのみなさんが進路先をきちんと掴み取ったことを担任として大変喜ばしく思っています。

進学する学生さんは今後も引き続き勉学や研究などに頑張ってもらおうとして、就職されるみなさんにおいては、学生という肩書きが無くなり、これからは一人前の社会人として責任を持った行動をすることが求められます。社会人となってから、仕事の悩み、人間関係の悩み、お金の悩み等々、上手くいかないことや、落ち込んでしまうことに出くわすことが多々あることでしょう。他の先生方であれば、ここで気の利いたお話をするのですが、文才の無い私なりに一つ、こんなお話をしたいと思います。

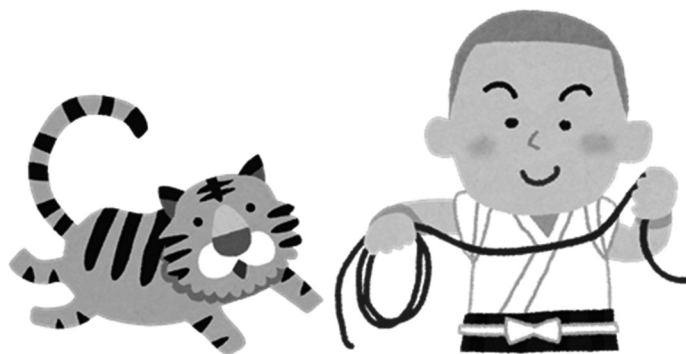
みなさんは一休さんという人物をご存知かと思いま

す。知らなくても名前くらいは聞いたことがあるでしょう。正式なお名前は「一休宗純」という平安時代に活躍されたお坊さんです。史実かどうかは知りませんが、足利義満とトンチ勝負をしたことが有名です。「ポクポクポクポク・・・



ちーん♪」と閃くシーンがアニメでは有名ですね。（今の学生は知らないかも？）一休さんには晩年、多くのお弟子さんがおられたそうなのですが、亡くなる際に「この先、どうしても困ったとき、苦しいときに開けなさい」と一通の手紙を残されたそうです。何年かして、お弟子さん達が困りに困り果てた状況に陥った際に、手紙を開けてみると、中には「心配するな、大丈夫、なんとかなる」とだけ、書かれていたそうです。「くそっ！あのアホ師匠！」とお弟子さん達は思ったかもしれませんが、しかしながら、悩みなんてものは過ぎてみれば杞憂だったということが大半です。悩めば悩むほど、視野が狭まり、他人のアドバイスにも耳を貸さず、最後には判断を誤ってしまいます。一旦、落ち着いてからひとつひとつ着実に目の前の問題を解決していきましょう。高専で鍛えられたみなさんであれば大丈夫です。どうしても困ったときは、そうですね、私に電話してください。話し相手にはなります。

さて、建築業界は今後も技術が進化していく一方で、取り残されぬように日々のアップデートが欠かせませんが、みなさんはそれらの素養をしっかりと有しているはず。挫けず、気楽に、これからの人生を楽しんでください。困ったときは一休さんの言葉を思い出してください。成長したみなさんに再び会えることを楽しみにしています。では改めて、卒業おめでとう！！



次世代のエンジニアに思いを寄せて

専攻主任 藤川 俊秀

専攻科ご修了、誠にありがとうございます。ご家族の皆様におかれましてもお子様のご修了にお喜びもひとしおのことと拝察申し上げますとともに、心よりお祝い申し上げます。併せて、専攻主任（以下、担任）を仰せつかりました一年間、クラス運営、授業や実務実習、特別研究や学会発表などに真摯に向き合い、熱心に学生のご指導を賜りました教職員の皆様に篤くお礼申し上げます。

2022年度に土井教授から担任を引き継ぎ、一年という短い時間の中で如何にして皆さんと共に学校での生活を楽しみ、そして各々の目標に対してどのように私自身が向き合うことができるかを考えていました。専攻科では研究を主とした学校生活になりますので、皆さんが所属されていた各研究室の先生方に相談をしながら、皆さんの「輝かしい未来」をどのように築くことができるのかを常に考えていました。そのため、状況に応じてときには「きびしく」することがあったかと思いますが、皆さんは臆することなく、一歩前にさらに一歩前にきてください。私自身が皆さんに支えられた一年でもありました。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

2016年4月に皆さんは本科1年生として本校に入学され、この年は奇しくも私が本校に着任した年でした。入学式での初々しさや、希望をもって入学された様子が思い出されると同時に、同じ一年生として頑張っていこうと決意したことを記憶しています。皆さんが高学年になるにつれて、クラスの雰囲気が年々素晴らしく良くなっていくことを感じていました。特に、4年次に行われた「文化祭での研究発表」では夜遅くまで必死になって作業され、クラスのメンバーが一致団結してモノづくりに没頭し、お互いの意見を尊重しあいながらプレゼン資料を作成されていたことはいまでも鮮明に記憶に残っています。本科4年次開講科目「創造設計」では各チームが開発した製作物の競技会にもご一緒させていただき、大いに盛り上がったことも記憶しています。自分だけの欲得にとらわれず、まわりの人たちにも気をつかい、自分の弱さを素直に認めて相手を幸せにすることのできる本当に素晴らしいクラスでした。専攻科開講科目「創造デザイン演習」では防災・減災をテーマとして他学科の専

攻科生とともにアイデア発想、グループワーク、製品設計から開発までを行いつつ、進捗状況説明会、外部評価会、最終発表会をチームとして見事に成し遂げられていました。専攻科生に進学した皆さんの能力の高さを大いに感じ、物事を貪欲に深く学ぶ姿勢が非常に頼もしく、感動したことを覚えています。平日頃の行動によって誠実な姿は記憶に残ります。

ご修了まで七年間、皆さんはご家族や仲間（学生）、指導教員の先生方と教職員の皆様など、多くの方々から励まされてこられたかと思えます。しんどいときには皆さんの背中を押し、がんばったときには褒めてくださった方々に感謝の言葉を伝えてください。そして「感謝の気持ち」と「おもいやり」を忘れず、皆さんは次の世代の人たちの背中を押ししてください。いまの一瞬一瞬を大切に、情熱と信念をもって人生を歩んでください。もちろん最短距離を進む必要はありません。遠回りをして結果的には自ずと最短距離を見出すことができるからです。失敗を恐れず若いうちに多くの失敗を経験してください。そして、若いうちに雑用をいっぱいこなして多くのことを吸収してください。この姿勢を忘れず、各々の進路先におかれましても、「前向き」に「心素直」に歩んでいかれることを期待しております。また、自分に見えている目の前の現実に希望をもち、前向きに捉えて困難を乗り越えて行かれることを祈念しております。

最後にお願いが一つだけあります。高専で学んできた「知」と「がんばり」は、世の中の困っている方々を助けるために、その人たちを「幸せ」にするために使ってください。これからの日本を支える人材になってくれることを心から願っています。今後の皆様のご活躍を心より祈念し、お祝いの言葉にかえさせていただきます。



修了記念 ～機械電気工学専攻～

この1年を振り返って

専攻主任 濱田 次男

何年ぶりの専攻科担当だろうか。専攻科設置の準備時期から専攻科1期生が修了するまで担当して以来である。そう考えると20年ぶりの仕事となる。専攻科の学生と同じ建物で過ごしているにも関わらず、いざ担当すると創設期に比べより充実したように感じられる。学生を直接指導する担当教員の努力もさることながら大きな要因は、情報ネットワークの整備が上げられる。多くの情報を即座に入手できる、あるいは発信できるその手段が20年前に比べはるかに向上したことで学生への指導が迅速なものになった。例えば、研究に必要な論文にしても特定の雑誌のコンテンツから関心のあるものを複写依頼で入手していた時代もあったが、情報ネットワークの普及により簡単に短時間で入手できるようになった。同様に情報発信も国内外とのやり取りがスムーズとなったことで場所と時間が関係なくなったように感じられる。学生たちはそんな環境の中で学び、自らの研究を着実に進めながら今を基準にして、さらに新しいものを見つけようとする日々を過ごしている。まさに本科での知識経験を具現化してより深く掘り下げる専攻科本来の目的が見えるところである。

専攻科1年、2年生（電気情報）は10名程度である。卒業研究生とゼミの学生を合わせたような人数である。ところがインターンシップから就職・進学の相談までを一気に消化しなくてはならない。内容的には4年生、5年生相手の指導内容を同時に行っているのと同じである。インターンシップは夏季休暇前から希望調査、相手企業との相談、そして前期が終わる頃に報告会を行う流れである。これと平行して2年生に対しては就職先の案内や大学院進学希望者からは、過去に出題された入学問題の解説などを要求されることもある。加えて、調査書や推薦書作成のための面談などにも相当な時間を割かれるが、本科での経験があるため学生らの反応はとても良い。このようなプロセスを経て今年度は、民間企業2名、大学院2名、および本校研究生1名の進路が決定した。

現2年生は新型コロナの影響で本科卒業間際から思うように教育研究活動が出来なかった。そんな状況下でも会議や様々なコンペへ参加し多くの賞を受けている。休日に少しの時間を見つけて指導教員とのディスカッションや装置製作などに汗を流す姿がよく見られた。指導する側も大変だが、それに応える学生の資質も高く先にある目的を達成しようとする姿勢は立派であった。

最後に私自身これまで経験のない国外の大学院への進学希望者への指導である。同じ分野なら何とか接触のやり方もあろうが異分野となると容易ではなかった。結局、大学の入学時期が異なることから研究生として本校に残ることとなったが、専攻科修了までの間も研究業績を積み重ねるために多くの会議で発表を重ねるなど、その研究活動の熱が冷めることはなかった。自らの夢を追い続け実現しようとするこの意気込みに敬意を表したい。また、国外の大学院を探すにあたり国際交流センター長の岩熊教授のご協力で多くの情報提供を頂いた。紙面を借りてお礼申し上げたい。



群馬で開催された全国高専プロコン大会の一場面。この大会では次の賞を受賞しました。

- ・セゾン情報システムズ企業賞
- ・自由部門における特別賞

選定理由として「顔の微表情から現在日本で深刻な問題となっていることを解決しようとしたところ」が画期的な作品であるとの理由である。

修了記念 ～物質工学専攻～

豊かな人生を！

専攻主任 山下 敏明

8名の物質工学専攻2年生の皆さん、専攻科修了おめでとうございます。

修了生の生まれた年は、国内では、小淵恵三氏が森喜朗氏に首相をバトンタッチし、国外ではブーチン大統領が誕生した西暦2000年です。それから22年が経ち、4名の学生は大学院に進学し（大阪大学大学院、九州大学大学院2名、東京工業大学大学院）、4名の学生が就職することになりました（旭化成株式会社2名、久光製薬株式会社、宮崎エブソン株式会社）。7年間の学業生活のうち3年間もコロナに翻弄され、研究や好きなことを思う存分やれず、教員側もどれだけサポートできたかと申し訳ない気持ちで一杯です。しかし、さまざまな制約があるなかで、皆さんはインターンシップや学会発表うまくこなしながら、創造デザイン演習や特別研究をまとめあげたことは、本当に立派だと思います。拍手を送りたいと思います。保護者の皆様におかれましても、このような困難な中での専攻科修了、感慨もひとしおのことと存じます。心よりお喜び申し上げます。

さて、これから羽ばたっていく修了生の皆さんに少しお話しさせていただきます。言うまでもなく人生は、楽しいこと、悲しいこと、嬉しいこと、辛いことが交互にやってきます。「人生とは美しい刺繍を裏から見ているようなものだ。」という比喻がありますが、悲しいこと、辛いことがあったときは、一本の繋がった表の美し

い刺繍を遠目で見ると、乗り越えられるのではないのでしょうか。それから、「感謝の気持ち」は心の栄養ドリンクと思っています。感謝の気持ちを持つと気が楽になり、活力が湧いてきます。また、手軽に利用できる「心」と「体」のオアシスをいくつか決めておくといいでしょう。皆さんにとってのオアシスは何ですか？何かが起きる前に見つけておくことが重要です。

最後に、世界は自分が解釈したとおりになるし、自分が予測する人生になるそうです。あなたのボスはあなた自身。深淵なる言葉です。どうか豊かな人生を送ってください。これが私たちの願いです。



建設業界の明るい未来

専攻主任 山本 剛

専攻科修了おめでとうございます。

優秀な成績で学業を修め、2級建築士の資格も取得した君たちは模範的な専攻科生だったと思います。次は合格率が10%程度の1級建築士の資格試験に合格する必要がありますが、自学学習の習慣を身につけた皆さんにはそれほど高いハードルではないでしょう。これからは現場が学びの場になりますが、何を学び、どこへ向かうのでしょうか。

太古の人々は木の枝や動物の皮などを用いた住居を建てて生活していたようですが、コンピュータの出現によって構造解析が進化し、超高層建築物や大空間を持つ建築物の設計ができるようになりました。1990年代のバブル期にはスーパーゼネコンを中心に高さ1000m以上のハイパービルディング（超々高層建築物）の計画が次々と発表され、各社が建築技術の高さをアピールしていました。例えば、「スカイシティ1000」は凹型の14層の空中台地で構成され、各層には住居、オフィス、商業施設や学校、公園が配置された高さ1000m、総面積が800haの35000人が居住できる未来都市の提案でした（※1）。これらの計画はバブル崩壊により実現しませんでした。2010年にドバイに建設されたブルジュ・ハリファは高さが828mあり、ハイパービル級のビルの建設は現実のものとなっています。建築材料と建築構法は進化を続けており、今ではガラスを構造材と使用することも可能になり、CLT材等の木質材料で高層建築物も建設されるようになりました。

建築のフィールドは地球の外へも広がっています。大林組はロケットの代わりに宇宙と地球を長さ96000mのケーブルで結ぶ交通輸送システム「宇宙エレベータ構想」を2012年に発表しています。夢物語であると言われていた宇宙エレベータでしたが、1991年のカーボンナノチューブの発見により、実現可能性が高くなったそうです。2025年に着工して2050年の完成を目指すそうです（※2）。2022年には国土交通省が推進する「宇宙無人建設革新開発推進事業」の中で大成建設の「月面適応のためのSLAM自動運転技術の開発」が採択されており、宇宙での建設活動を視野に入れたプロジェクトが始動しています（※3）。

このようなことを実現できるほど我が国の建設技術は進化していますが、現場に目を向けてみると、資材を運んでいるのは人、建設機械を操作しているのも人、それらの人たちを指揮しているのも人です。新素材を開発し、新構法を生み出し、ハイテク機能を有した建設機械

を操作して高さや大空間を自由に手にできるようになった現代ですが、建設の行為が人の組織で成り立っている点は、ピラミッドを建設していた古代エジプトの頃からそれほど変わっていないのではないかと思います。



工期が数年に及ぶ大規模建築物の現場になると多種多様な人材が集まっていて、若い施工管理技術者が現場を管理するのは容易ではないと聞きます。学生時代に多くのことを学んだと思いますが、これからは「人」について学んでいくことになるでしょう。皆さんは専門知識を身につけることは得意なので、建設技術者としてステップアップしていくには人間関係をいかに学ぶかが鍵だと思います。時には時代錯誤の叱咤激励の場面に出くわすかもしれませんが、今のハードルだと思って乗り越えてください。でも心配する必要はありませんよ。今は若い施工管理技術者の成長を支援する仕組みが各社整備されていますので。

建設作業員の減少は建設業界が直面している大きな問題ですが、スマートフォンなどの携帯端末と本社PCをつないで現場の状況を遠隔で管理し、ウェアラブル端末を用いて現場に指示を出すなど、新しい技術によりこの問題を克服する取り組みも始まっています（※4）。建設業界の未来は明るいと思います。皆さんの活躍を期待しています。

【参考文献】

※1 竹中工務店、超々高層建築構想、竹中工務店のwebページ、

<https://www.takenaka.co.jp/solution/needs/highrise/service02/index.htm> (参照日2023. 1. 10.)

※2 宇宙エレベータ建設構想、季刊大林、(株)大林組、No.53、2012。(参照日2023. 1. 10.)

※3 宇宙無人建設革新技術開発の実施対象として新たに3件を決定～月面等での建設活動に資する無人建設革新技術開発推進プロジェクト～、国土交通省のwebページ、

https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo15_hh_000334.html (参照日2023. 1. 10.)

※4 国土交通省、i-Constructionのwebページ、<https://www.mlit.go.jp/tec/i-construction/index.html> (参照日2023. 1. 10.)

卒業記念

人生の分岐点

機械工学科 5年 熊谷 良護



中学校を卒業して早くも5年が過ぎようとしています。今思えばあっという間の5年間でした。40人近くの友人と出会ってこれまで、同じ教室で同じ時間を過ごしどんな時も助け合って過ごしてきました。

私たちのクラスは、クラスマッチ、体育祭、文化祭で負けを知らずでした。授業では、先生方に大変多くの失礼とご迷惑をかけたクラスとは思えないほど、毎年本気で取り組み先輩たちを差し置いて優勝することも多くありました。これは、授業中、毎回何らかの注意を受けてきた私たちの唯一誇れる部分でもあると思います。しかし、誇れるのは優勝したことではありません。先輩方に勝利したことでもありません。ほかのクラスより、仲間意識が強かったことです。これまで20年間、友人と本気でぶつかって本気で喜び合った経験はありませんでした。仲間の大切さ、仲間がいる心強さを知れたのもこのクラスメイトと5年間過ごしてきたからです。これから、それぞれが違う道を歩んでいくわけですが、この経験は本当に私自身の財産になり、どこかで役に立つと思います。一つの物事に本気で取り組むこと、仲間を大切にすることは本当に素晴らしいことです。後輩諸君もぜひ、目の前の物事に全力で取り組み、隣にいる友人を大切にすることから始めてみてください。そうすれば1年後には必ず違った自分と出会えるはずです。私がそうで

あったように皆さんもそうなるはずですよ。

ここからは、クラスのみんなに向けて書き記します。高専に来てみんなと出会い早5年の月日が流れました。私たちのクラスはいろいろなことがありましたね。ここには書ききれないほどたくさんのことがありました。いいことも悪いこともです。でも、今思えばみんなと出会えたから、5年も高専に通うことができた楽しくここまで来れました。みんなにはたくさんの迷惑をかけたと思っています。私もたくさんの迷惑を受けました。でも、みんなだから許せるし、許してくれると思います。どうか許してください。このクラスが一人でも違う人なら、こんな5年間は過ごせていないと思っています。人生の分岐点でもあるこの5年をみんなと過ごせて本当に幸せでした。ありがとうございます。これからまた機会があれば集まって5年間で起こした悪事について笑って話せるのを楽しみにしています。

最後になりますが、先生方には本当に数えきれないほどの迷惑と心配をおかけしました。心よりお詫びとお礼を申し上げます。この5年間でご教授いただいたことは決して忘れません。先生方の期待に応えられるよう、我々は精一杯自分の道を歩んでいきます。どうか見守っていただけると幸いです。

本当に充実した5年間でした。関わってくださったすべての方にお礼を申し上げて最後の言葉とします。

高専での5年を振り返って

電気情報工学科 5年 今川 拓真



高専に入学してから早くも5年が経ちました。入学した当初は「自分はしっかりと授業についていけるのだろうか。また、クラスの人たちとうまく付き合っていけるのだろうか」という不安と「ここでどのようなことを学び、自分はどのように成長していくのだろうか」という期待を抱いていたのを覚えています。入学して直ぐに実施された数学のテストで、90点という高得点を取ったのにもかかわらず約90位という順位だったことに戦慄したのも今となっては良い思い出です。

さて、電気情報工学科といえば実験、レポートというイメージがあるかと思います（実際、僕も電気情報工学科の特徴を聞かれて真っ先に思い浮かぶのがそれです）。2年生の前期から5年生の前期まで数多くの実験を行い、それを基にレポートを作成してきました。実験やレポートは大変なものばかりでした。実験は結果が合わなければやり直しをすることもあり、レポートはレポート用紙に何枚も書き、やり直しを食らえば1枚まるまるやり直さなければならないこともありました。しかし、それを乗り越えるため他の学生とたくさん話し合ったり協力したりしてきました。僕は班の人と協力して実験を進めたり、他の学生とレポートの考察について話し合ったりする時間

が結構好きでした。自分とは違ったものの見方や違う考え方をする人の話を聞いてハッとさせられることが多々ありました。大変なことも多かったのですがそれ以上に自分にとって良い経験となりました。

僕はこのクラスでいろいろな学生に助けられ、ここまで来れました。様々なことを教えてもらい、協力してもらいながら進んできました。僕が社会人になった時、仲間と協力し、助け合いながら過ごしていけたらいいなと思います。最後に5Eのみなさん、担任の小森先生、電気情報工学科の先生並びに高専の教職員の皆様方、今まで本当にありがとうございました。

卒業記念

5年間を振り返って

物質工学科 5年 萩原 陸斗



都城高専に入学してから5年が経ち、いよいよ卒業が近づいてきました。入学当初は、5年間という長い時間の中でこのクラスに馴染めるか、勉強についていけるのかなど様々な不安がありました。しかし、学年を重ねるにつれ、クラス全体で仲は深まり、不安は次第に無くなっていきました。それは学校生活が楽しく充実していたからでしょう。それでは、1学年から振り返ってみたいと思います。

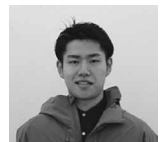
まず、1学年では、文化祭が一番印象に残っています。文化祭では、劇をしました。初めてのクラス一丸となってきた行事だったためとても印象に残りました。2学年でも1学年のときと同じく文化祭が印象に残っています。2学年では、お化け屋敷をしました。3学年では、コロナウイルスが流行ったことで学校にも行けず、ほとんどの行事が行われませんでした。その中でも、体育祭は行うことができ、それが一番印象に残っています。私は、初めて応援団に入りました。物質工学科はこれまで2連覇しており、3連覇がかかっているプレッシャーの中で見事3連覇を果たし、とても楽しかったことを覚えています。4、5学年でも、同じく体育祭

が印象強いです。学年が上がるにつれ、応援団に参加するものが多くなり、私たちが5年生の時には、100人を超える人数が集まりました。最終的には、5連覇することができました。

卒業が近づくにつれ、友達と思い出話に浸る日々が多くなり、寂しい気持ちでいっぱいです。私たちは、これからそれぞれの進路に進むことになります。都城高専で学んできた事、経験したことをこれからの人生において生かし、自分自身をさらに成長させたいと思います。将来は、できるだけ視野を広く持ち、自ら機会を創り出すことのできる社会人を目指したいと思います。受け身にならず、自分が成長できる機会を積極的に創っていきたいです。最高の仲間と出会い、充実し学生生活を過ごすことができ、本当に良かったです。最後になりますが、私を5年間支えて下さった先生方、友人、両親に感謝の意を伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

5年間の思い出

建築学科 5年 坂元 心太郎



高専に入学し四年半、私はクラスの委員長を務めたことがなかったのですが5A 栢山佳生君の推薦により五年の後期にクラス委員長になり、卒業記念文を書くこととなりました。とても光栄で嬉しいです。ありがとう、栢山君。私の高専での思い出をこの場に綴らせていただきます。

1年生の頃、私は大きな期待を胸に高専に入学しました。大人びた上級生や規模の大きな学校を目の前にして、環境に馴染むことができるか不安だったのも覚えています。今となっては高専の上級生ですが、あの頃見た大人びた上級生のように私も成長できているのでしょうか。また、この5年間を振り返ると体育祭や文化祭、高専大会、クラスマッチなど楽しかったことがたくさんあったなと思います。特に5年時のクラスマッチは間があまり空いていないこともあり印象に残っています。最後のクラスマッチだったため、5A皆いい結果を残そうとやる気に満ちていました。高専に入学して運動不足になっていましたが、勝利に向けて戦略を練り共に体を動かす、実行にうつすことは楽しくて、気持ちがいいなと感じました。結果はバスケ、サッカー共に準優勝でした。サッカーはPK戦までもつれ込みましたが惜しくも敗れてしまいま

した。優勝することはできなかったですが優勝までいけないのも5Aらしいと笑い合い、最高の思い出として終わったので満足しています。

4月から皆、それぞれの進路を歩み始めます。私を含め地元を離れる者が多いため今のように遊んだり食事に行くことが難しくなります。寂しくなりますがいつか再会したときに胸張って会えるよう日々の仕事や私生活を頑張ろうと思います。あと、森木君と中元君は手袋とシャーペン、返してください。待ってます。最後に、このような恵まれた環境である都城高専に5年間通学させていただいた両親、研究やクラス担任とお世話になった浅野先生をはじめとする教職員の方々に大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

修了記念

専攻科修了に寄せて

機械電気工学専攻 2年 一宮 稜平



私の7年間の高専生活が終わりを迎えようとしています。

約7年前の入学試験の面接で、本科卒業後の進路として「専攻科へ進学します」と唐突に答えたことを今も覚えています。しかし、それが本当に実現するとは思っていませんでした。夢は言葉にすれば実現するのかもしれませんが。

専攻科の2年間は、材料保証学研究室の一員となってマルレージング鋼の熱処理をテーマとした研究に携わりました。私は本科3年生の材料実験で、金属材料の熱処理によってその性質が変化する不思議さに惹かれて金属材料に興味を持つようになりました。そのため、この研究に携われたことは私の原点に回帰した思いで嬉しいことでした。ところが、専攻科での研究活動に期待を膨らませていた矢先、入学後1ヶ月で再び遠隔授業に移行した期間は非常に残念でした。新型コロナウイルスの収束の兆しが見えない中、これからもまた不自由な研究活動や学生生活が続くのかと、様々な戸惑いや葛藤を抱えて過ごしていたことを覚えています。

しかしそのような状況でも、研究活動を含め英語による

学会発表への準備や勉学、学生活動など、今やるべきことは何かを考えて歩みを止めなかったことが私をさらに成長させたと思います。自身に置かれている状況とスケジュールを吟味することで、一つ一つの物事に集中して取り組みました。この2年間で自身の計画性と行動力はさらに向上したと思います。物事一つ一つの優先順位を自身で判断し、責任を持って納得するまで実行する楽しさと難しさも学びました。学生時代にこの経験ができたことは、今後の社会人としての忙しさに負けない対応力が身に付いたと思います。

好きな分野の研究に携われた日々、充実した多忙な毎日を過ごした日々、友人と楽しい思い出を共有した日々は、幸せな2年間だったと胸を張って心の底から言えそうです。

最後に、7年間の学生生活や3年間の研究活動においてお世話になった先生方、遠く延岡から見守ってくれた家族、楽しい時間を共に過ごした友人に心から感謝いたします。ありがとうございました。

専攻科修了にあたって

機械電気工学専攻 2年 柏木 涼太



都城高専に入学してから7年が経ちました。小学校生活の6年間より長い生活でしたが、小学生のときより時間が早く過ぎ去ったような気がしています。特に専攻科の2年間は特別研究や大学院へ進学するための勉強に集中していたためあつという間だった。

私の高専での大きな分岐点は研究室配属だったと思います。インターンシップを終えた4年生の時の私は、なんとなく就職を希望していました。研究室配属後、同じ研究室の専攻科の先輩と話す機会がありました。そのときに就職以外の専攻科進学や大学院の存在を知り、「特にやりたいことが見つけれないまま就職していいのか」や「もっと専門的な内容を学ぶ必要があるのではないのか」など不安と同時に、「専攻科や大学院に進学するチャンスがあるにも関わらずこのまま就職したら後悔する」と感じ専攻科に進学しました。

専攻科に入学してからは大学院進学に向けた大学院入試(院試)の勉強に集中しました。院試の勉強はこれまでの

ように友人に教えたり、教えられたりする勉強方法と違い、個人で深く考えて自分自身で答えを導くという勉強方法になりました。院試の問題はレベルが高く、多くの分からないことがあり、一人で勉強するため「分からないことを共有できない」という不安と孤独との戦いでした。しかし、このおかげで深く考え答えをひねり出す力や精神的な面でも成長できたと思います。大学院進学後も専攻科で伸ばすことのできた能力を生かして、勉強や研究に励み、社会に貢献できるような研究者・技術者になるために努力したいと思います。

最後になりましたが、難しい問を1つ1つ一緒に考え、教えてくださった先生方やこの不安な時期に励ましてくれた友人、常に私の考えを反対せず信頼して支えてくれた家族に心から感謝します。これからも、この気持ちを忘れず、謙虚に頑張っていこうと思います。本当にありがとうございました。

修了記念

専攻科修了にあたって

物質工学専攻 2年 甲斐 風香



いよいよ7年間の高専生活が終わりを迎えようとしています。特に印象に残っているのは、兄の背中を追いかけて本科5年間ロボコンに注力したことです。ロボコンでは多くの挫折と成功を経験しました。本科1年生の時、機械工学科と電気情報工学科の学生の中で学科の差を感じることもあり、工作機械の扱い方を学ぶために、休日も実習工場へ足を運んで、寝る間も惜しんでレポートや課題に取り組み、常に睡魔と闘っていました。しかし、その結果、ピットメンバーに選出されて全国大会へ出場し、努力が報われました。自分たちが半年以上かけて作り上げたロボットが動く時に湧き上がる歓声は今も忘れられず、ロボコンを続けていて一番嬉しかったことです。逆に一番辛かったことは、リーダーになった5年生の時、新型コロナウイルスが猛威を奮ったことです。初めての現地でのモンゴル高専との技術交流は中止、また、初めて参加するABUロボコンの正式なコンテストも中止、さらに外出自粛を繰り返す中でロボコンや卒業研究に対するモチベーションが下がり、私は塞ぎ込んでしまいました。それでも母が一番近くで私を支え続けてくれて、私は無事に専攻科へ進学できました。

専攻科進学後は、遠隔授業に伴い少しずつ対面授業が増え、学校での実験が可能になりました。一時は研究に関する実験ができない日々が続いたり、就職活動を控えていたり、不安に押し潰されそうな時もありましたが、本科時から仲の良かった友人と励まし合い、多くの人に支えられて今まで頑張れたのだと思います。2年間という短い期間でしたが、研究のノウハウを学んだだけでなく、人との縁の大切さを学びました。修了後も感謝の気持ちを忘れず、研鑽を積みみたいと考えています。

最後になりますが、今の私が心から幸せだと思えるのは周囲の方々の支えがあったからです。7年間という長い間私を見守ってくださった先生方、一人親ながら進学を受け入れ全力で支えてくれた母、時に厳しく導いてくれた兄、支えてくださった全ての方々に、心から感謝申し上げます。今まで本当にありがとうございました。

修了にあたって

建築学専攻 2年 温水悠太



本科と合わせて七年にわたる都城高専での学生生活ももうすぐ終わりを迎える。私が送ってきた都城高専での生活を俯瞰して思い返せば、非常に楽しく充実した学生生活であったと感じている。学業や部活動、趣味など様々なことに精力的に取り組んだし、学校行事や放課後の交流をきっかけに、これからの人生を通して交友を深めていきたいと思える大切な友人もできた。一方で、決して楽な学生生活ではなかったとも感じている。テスト期間や学校の課題、部活動、アルバイトなど様々な活動に一生懸命取り組むことはそれなりに大変なことであったし、自分の将来のことや人生の課題についての不安も常に持っていたため、悔しい思いも何度も経験した学生生活であった。こうした様々な経験を通して学んだことの中から、特に大切にしたいことを、忘れることのないようにここに挙げていこうと思う。「自分と他者を比較しないこと」「他者を敵だと思わないこと」「他者の助けとなること」「頑張りすぎないこと」「自分の機嫌は自分でとること」。振り返ると、私は自分本位で物事を考えることが多かったように感

じる。これからの私の人生を豊かなものとするために、学生生活の中で学んだこれらのことを実行していこうと思う。

私は専攻科終了後の進路として、大学院進学を選択した。自分の中で、まだ学生として学びたいことや学ばなければならぬと思うことが多かったためである。大きく環境も変化し、困難も沢山あると思うが、都城高専での学生生活を通して学んだことを忘れず、さらに自分に磨きをかけて、自分の納得する将来を掴みたい。また、いつも背中を押してくれ、大学院進学も理解し、受け入れてくれた両親に恩返しできるように努力を続けたい。

謝辞：私がこのように学び多く充実した学生生活を送ることができたのは、友人や担当教員の岡岡先生、普段から支えてくれる家族のおかげでした。大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。

「初志貫徹」

高専祭実行委員長挨拶 金子晴飛

まずは、高専祭の開催にあたって協力して頂いた学生の皆さん、先生方、企業の方々に実行委員を代表し厚く御礼申し上げます。

今年は、現2年生から5年生にとって初めての2日間開催の高専祭であったので、実行委員は学生の皆さんの大きな期待を感じながらの準備となりました。実行委員長としては当然ですが、どうやったら学生みんなが楽しめるか、円滑に運営ができるか日々考え続ける生活でした。しかし、僕以上に局長をはじめとする他の実行委員も高専祭について真剣に向き合っていてくれたこともあり、高専祭の成功への大きな原動力となりました。

そして、自分の中で今年の高専祭に大きな意味を持たせていたものが打ち上げ花火です。

「都城高専きらきらドキドキ花火」は皆さん楽しめてもらえましたでしょうか？発案当初は実現可能性も低く、実行委員の中でも反対意見のあった企画でもありました。けれど、学生みんなで楽しめて、思い出に残る、コロナでたくさんモノを奪われた学生たちに実行委員としてできることに打ち上げ花火以上のものはないという確信がありました。前例もなく、自分と友人の頭の中で膨れるばかりの打ち上げ花火のイメージでした。「学校で打ち上げ花火はエモい」「下から花火はえぐい」だの可能性が低いときから盛り上がっていました。頭の中がお花畑とはこのことを言うのだと思います。しかし、有言実行しなければ、口だけの脳内お花畑クソ野郎になってしまうと思い、必死こいて行動しました。花火の会社を探し、企画書を書きまくり、実行委員にパワーポイントで説明する。それでも、予算や時間など指摘される多くの問題点。実行委員の集会があるたびに頭を抱えました。そのたびに、作戦会議になったのも今となってはいい思い出です。一緒に悩んで考えてくれた友人たちに言ってなかったのも、この場を借りてお礼をします。ありがとうございます。そんな協力もあつたおかげで、なんとか高専祭最後のフィナーレとして実現することが出来ました。そしてなにより、準備から当日の6分半の打ち上げ花火までの一挙手一投足が自分の中でかけがえのない貴重な時間・経験となりました。そのときの感情を忘れたいと思います。

そうこう思い出に浸っていると、今年もまた文化祭の準備が始まりますね。4月から始まる長いようで短いプロジェクトです。昨年は、例年より前代未聞の多い高専祭だった実感があります。僕個人として、今年はさらなる前代未聞が起こることを少し期待しています。

最後に、今年の文化祭が昨年よりも楽しい文化祭になることにも大きく期待し、実行委員長挨拶とさせていただきます。



機械工学科 『電動キックボード』

倉地 遼太郎

私たち4年機械工学科は、「電動キックボード」を作りました。2022年の4月に道路交通法が改正され、電動キックボードがほぼ自転車扱いになることになり、大きな話題になりました。しかし、電動キックボードの多くは、安全で快適に走ることができず、「自転車の18倍も事故」が起きているそうです。

そこで私たちは、「特定小型原動機付自転車の法律に準じた、安全で快適に、誰でも乗れる電動キックボード」を作ろうと考え、製作に取り掛かりました。設計班と製作班に分かれて効率的に進



めるも、作業は困難を極めました。安全性での問題を解決するために、フレームを一から製作し走りやすく

したり、バイク用ブレーキを流用し安全性を高めました。特にフレームの製作は、難しく、設計段階ではうまくできていたところが実際に作ってみるとうまく噛み合わなかったり、溶接がうまくできなかったりとイレギュラーが多く大変でした。それでも、設計班が求めるものを、製作班のメンバーが今まで培った技術力で作業を行い、当初の目的通りの「特定小型原動機付自転車の法律に準じた、安全で快適に、誰でも乗れる電動キックボード」を完成させることができました。

おもしろ科学フェスティバルでは、小さい子供から大人まで安定して走行することができました。



電気情報工学科 『便利な自動販売機作ってみた』

丸山 湧大

皆さんは去年の夏をどのように過ごしましたか？外に出かけても猛暑で室内にいる時間が多くなったと思いますが、屋外でも冷たい飲み物が飲める自動販売機ほどありがたいものはないですよね。そんな思いで私たち4年電気情報工学科は、「マイコン制御による自販機制作」というテーマで便利な自販機を追求しました。さて、一体どんな自販機が便利なのか？自販機にお金を入れるのって地味に面倒ですよね。穴小さいですし、お釣りも下から出てくるし、、左利きのこと何も考えてないデザインです。こう考えると今の自販機ってかなり面倒じゃないですか？解決策をいろいろ考え、そして、(ならお金の出し入れがない自販機作ればすべて解決するのでは??)、という素晴らしい案の下制作を行いました。

具体的にどんな自販機を作るのか。主な流れは顔認証システムを用い、登録された人がカメラの前に現れたら購入できる状態にし、購入したら商品の金額を加算していき後日請求するというものです。今回制作するにあ

たって主に使用した機材は「Raspberry Pi(ラズパイ)」と「Arduino(アルディーノ)」です。2つともテーマにもある「マイコン」というものなのですが、やってくれる仕事の違いがあります。ラズパイは高度な数値計算が得意で、顔認証システムのすべてを行います。アルディーノの方は単純な作業が得意で、商品を落とすためのモーターの制御、使用額の管理を行います。この2つのマイコンを組み合わせることで自販機は出来ちゃうんです。

さて、ここまで見ると簡単そうだなって思う人もいると思います。実際には何度も何度も試行錯誤を重ねてきたんです。反省点としてはシステムに時間を使いすぎたこと、クラスの人みんなに仕事を振り分けられなかったこと、などまだまだたくさんあります。しかし高専祭では図書館の前に展示しており、多くの学生が足を止め、内部の機構を見ており、たまに質問もしてくれて、頑張った甲斐があったなと感じました。

最後に、協力してくれたクラスみんな、技術補佐員の中村さん、本当にありがとうございました。

物質工学科 『非金属へのメッキ』

大神 修羅・田爪 仁

私たち物質工学科4年生は、「高専祭で役立つものを作る」というテーマのもと、今まで学んだ物質工学科の知識を使って作れないかを考えました。しかし、何か「もの」を作るというテーマはなかなか難しく私たちは様々な案を出し合いました。結果、私たちは葉っぱに金属のメッキをすることでしおりとしても使える「もの」を作ろうという案に辿り着きました。この研究をするにあたって、葉っぱのしおりを作るためには葉っぱが腐らないようにする操作が必要。そして、しおりとしての見た目の良さが必要です。また、基本メッキは電気を通す物質でなければ行うことができません。

しかし、近年では活性化液で非電解物質に電気の通る膜を張り巡らせることによってメッキをすることができる「無電解メッキ」という技術が広まっています。私たちはこの技術を使ってメッキ実験を行ってみましたが、問題が発生してしまいました。それは、メッキをすること自体は成功し

たのですが、いくつかまばらにメッキされているものがあつたのです。これは、量産するとき見た目の悪さにつながるので、どのようにすればいいのか考えました。よくメッキできた葉っぱを観察すると、メッキが多くついているところにメッキする前処理段階に噴霧したラッカースプレーがよくついていることに気が付きました。このラッカースプレーは非電解物質でも活性化液が十分につくようにするもので、私たちはこのラッカースプレーをもっとまんべんなくつけられるよう試みました。試行の結果、まんべんなくラッカーを付着させることができ、それに伴って綺麗にメッキすることができました。このように、試行錯誤がありながらもクラスで協力してしおりを作ることができました！

最後に、研究発表に協力してくださった先生方や4Cの皆さん。発表は皆様の協力があつたおかげでやり遂げることができました。ありがとうございました。

建築学科 『目隠しフェンス』

外山 優那

私たちはSDGsの「気候変動に具体的な対策を」「陸の豊かさを守ろう」という2つに注目し、建築学科らしく木材を使って何かできないかと考えました。そして宮崎県木材利用センターの方から木造フェンスの設計コンペの話を頂きました。新しく開発された木材「MLT」を用い、空調室外機の目隠しフェンスを設計するコンペです。既存基礎を活かすこと、高さは1.5～2m程度とし通路から室外機が直接見えないようにすることなどの点を踏まえクラス内で4つに分かれ案を出し合いました。クラスで話し合い、選ばれた設計案を元に研究発表として図書館裏にあるガス置き場の金網の目隠しフェンスを制作することにしました。

クラスで選ばれたのは六角形が集まったデザインでした。このデザインはあるお話をもとに考えられました。それは「石と壺の話」です。ある大学の教授が壺の中に石、砂、砂利、そして水を入れる話なのですが、この話の重要なところは、壺は大きさが限られているため、大きな石を先に入

れなければ、他のものを入れる隙間はありませぬ。つまり大事なこと、やりたいことを先にやらなければ、人生という器にあとから他のことを入れることはできないということです。この話は今まさに就活か進学か、進路について大きな選択を迫られている私たちにとって、とても印象的な話でした。そしてそんなメッセージを込め、3種類の六角形(石・砂・砂利)の隙間から光(水)が差すようなデザインとなりました。緻密な計算や細かな微調整など難しく大変な作業ばかりでしたが完成したフェンスを見ると挑戦してよかったと思えました。

私はこういった大きなイベントの中心として動く経験がほとんどなかったため至らない部分も多く、周りのメンバーにたくさん苦勞を掛けたと思います。ですがみんなの協力もありクラス一丸となって最優秀賞をとれたことはいい経験と思い出になりました。このフェンスを制作するにあたり協力して下さった技術職員の先生方、4Aのみなさん本当にありがとうございました！



★機械工学科3年★ 『これまでとこれから』

東原 凱人

私たち3年機械工学科は、男子35名、女子5名、計40名のクラスです。私たちのクラスは、みんなが仲良く、元気のある楽しいクラスです。体育祭や文化祭、クラスマッチなどの行事も全員で協力して活動しています。

入学して1年目は、新型コロナウイルスの関係もあり、前期はほとんど学校に登校することができず、あまり友達と話す機会がありませんでした。しかし、後期は新型コロナウイルスが少し落ち着き、学校に登校することが出来始めました。後期になって、友達と話す機会が増え、よりクラスが活気づいてきました。

そして、2年生では、新型コロナウイルスも治まり、行事なども例年通り行うことが出来ました。特に文化祭では、私たちは脱出ゲームをすることになっており、その準備で放課後などの時間も利用し、クラス全員で作業しました。物の買い出し、ダンボールを黒色に塗る作業など、たくさんの作業があり、大変でしたが、当日までに協力してやり遂げることが出来ました。

3年生では、勉強面で専門の授業が増え、テスト勉強もより大変になりました。そのため放課後や休み時間に

友達同士で分からない問題を教え合う風景なども多く見られました。行事では、体育祭でクラスのほとんどが応援団に入り、放課後や休日は演舞の練習で忙しかかったです。クラス全員で協力して、学級リレーでは、上位に入る事ができ、全員が楽しむことができた行事でした。

4年生になると、インターンシップなどもあり、就職や進学などの将来のことも考えていかなければなりません。当たり前のように勉強面では、専門の授業などが3年生の時よりもより難しくなります。そのような時だからこそ、クラスの友達と協力し、勉強や将来のことで時には相談し合ったり、勉強で分からない問題を教え合うなどし、真剣に取り組んでいくことが大切だと思います。

最後に、これからもクラス全員で行事などに取り組み、助け合って、楽しい学校生活だったと言える2年間を過ごしていきたいです。

★電気情報工学科3年★ 『我らは3E』

水元 栄一

私たち3年電気情報工学科は男子32名、女子9名、計41名のクラスです。ほかの学年の電気情報工学科に比べると大人しく静かだと思います。活気がないとは少し違いますが、「おしとやか」と、言えばよいのでしょうか。謎が多く、個性強めの人たちが集う毎日笑いが絶えない面白いクラスです。

1年生の頃はコロナウイルスの影響で学校に数か月しか来れず、来れたとしてもクラスを半分に分けた状態で対面授業をおこなってました。その影響からか、1年生の頃はあまりクラス全体でまとまりがあったとは言い難い状況でした。ですが、2年生で文化祭などの大きな行事を通して徐々に慣れていき、今のクラスが構築されました。

勉強面では、他の学科と比べた時に最下位を取っていることが多いです。なんなら、毎回テストのときに先生方から言われているような気がします。専門科目での点数の平均点が絶望的だったこともありました。しかし、徐々に学力をつけ、今に至ります。成績上位の人たちを筆頭に、日々学力向上を目指しています。今は停滞していますが、嵐の前の静けさ、というものです。これから追い上げが始まるでしょう。我がクラスのこれからの成長を楽しみにしていきましょう。

最近のクラスの状況としては、毎日が実験のレポート提出に追われる日々です。おかげで、クラス内の活気は日に日に失われていっているように感じます。私もそのころは気持ちが沈み、何もやる気が起きなくなっていました。そのような感情は初めてでした。ですが、先生方のお力添えもあり、その状況は少しずつ落ち着いてきています。

様々な困難がありましたが、それらを乗り越え、私たちは来年はいよいよ4年生になります。そのまま4年生に進級する人、大学に行く人、それぞれ進む道が分かれてしまいます。それぞれが己に抱く野望があるのです。離ればなれになりますが、きっとこのクラスの絆は繋がったままだと思います。それまでの残された時間を楽しいものにし、一生忘れない思い出の学校生活を送っていきたくと思います。





★物質工学科3年★ 『3C』

森山 隼太

私たち3年物質工学科は男子22名、女子20名の42名のみんなが仲良くって賑やかな楽しいクラスです。

私たちの学年は、入学してからの半年間中ずっと学校に行けないという不幸な学年でした。その為、私は家で遠隔授業を受けている時、クラスメイト達と仲良くなれるかとても心配でした。このような思いをした人は私以外にも沢山いると思います。しかし、その心配を吹き飛ばしてしまうほどこのクラスはみんな仲良く楽しいクラスでした。

そんなコロナ禍でも、私たちは様々なイベントをクラスで協力して行うことが出来ました。文化祭では学科解放や脱出ゲーム、その他には体育祭やクラスマッチなどがあります。文化祭の学科解放や脱出ゲームでは、みんなで放課後に残ったり、特活の時間を使って代表者を中心に協力して準備をすすめ、無事に成功させることが出来ました。クラスマッチや体育祭では、みんなで力を合わせて戦いました。このようなイベントの度に、クラスで協力する姿を見て改めて良いクラスだと思わされます。

3Cが他のクラスに負けていないと自信持って言えることがあります。それは、成績の良さです。定期試験や実力試験での3Cの平均点は他のクラスと比べずば抜けて良いです。そんな3Cのテスト期間のクラスの雰囲気はとても良いです。友達同士で協力して教え合い、互いに楽しく勉強しています。その雰囲気の良さや、友達同士の協力が、クラス全体がテストで高い点数をとることに繋がっていると思います。

2年後、今いる3Cメンバー42人全員で高専を卒業し、それぞれの夢に向かって新たな道に進めるよう、これからも42人みんな協力し、切磋琢磨し頑張っていきます！

★建築学科3年★

『私たちだけスポーツ科』

花牟礼 桜香

私たち3年建築学科は男子22名、女子18名の計40名のクラスです。年中半袖の子、おかつぱの子、身長180越えが3名、女子の大多数がショートカットなどとても個性の溢れる元気なクラスです。クラスメイトに、3Aってどんなクラス？そう聞くと、みんな口を揃えて「仲良し！」と答えるでしょう。本当に仲がいいのです。良すぎるくらいです。

1年生の頃は新型コロナウイルスのため、3ヶ月ほどしか学校に行くことが出来ず、憧れの高専生活とは程遠いものでした。しかし今では、保育園の頃から一緒にいるような、そんな気分です。よく、幼馴染の名前を出して「○○って覚えてる？めっちゃ垢抜けてるよ」って言うと、「いやあんたと同じ保育園じゃないわ」というツッコミを喰らいます。

じゃあどんな所が仲良しなの？と思う方もいるでしょう。では、今までのクラスの実績を紹介したいと思います。

◎2年生

- ・体育祭 女子リレー優勝
- ・後期クラスマッチ 男子バレー優勝、女子ドッジ優勝

◎3年

- ・体育祭 大縄跳び100回、女子リレー優勝
- ・高専祭 学科開放優勝
- ・後期クラスマッチ 男子バレー準優勝、女子ドッジ優勝

それ運動神経がいいだけやないかーい。いやいや、スポーツって絆が1番大事なんですよ。じゃあ、頭はどうなの？勉強も絆って大事じゃない？そう思う方もいるでしょう。平均点はC科には敵わないし、専門教科の平均点は40点を下回ることもあります。分からない所を互いに教え合い、解けたら褒め合う素敵なクラスです。「中学生の頃は頭が良かった。」←口癖です。

そんな私たちにも、1つだけ欠点があります。そう、教室が汚すぎる。クラスラインに飛び交う「○○を2個もってる方いませんか？」何回も見ました。片付けましょう。

私は毎日学校に行くのが楽しいです。勉強は嫌だし、製図も頭おかしくなるけど、みんながいるから頑張れます。高専生活、思った以上に過酷だけど、それ以上に楽しいです。高専来てよかった！そう思えるメンバーと出逢えて、私は幸せです。みんなありがとう！



卒業生・修了生の皆さんへ

建築学科OB 松元 秀敬

卒業生・修了生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

建築学科昭和54年入学で、現在、深山会都城支部長を務めております松元です。

社会人として、これから第一歩を踏み出す皆さんへOBとして、お話ししたいと思います。

私は、高専卒業後、現在、都城市役所で、エンジニアではなく、事務職として勤務しております。そこで、一社会人として、これまでの自分の経験から皆さんにアドバイスできることを探してみました。参考にいただければ、幸いです。

昭和59年3月に都城高専を卒業した私は、「ありがとう」と言ってもらえる、人から喜ばれる仕事に就きたいという思いで、最も身近な都城市役所を志すことを決めました。

人より若干苦勞しまして、昭和62年に採用試験合格。昭和63年4月から都城市役所職員としての社会人生活がスタートし、在籍34年目を迎え、ゴールラインもチラついてまいりました。多くの職場で、様々な経験をし、数多くの苦勞もしました。その中で言えることは、まずは、あいさつが全ての基本ということです。あいさつは、社会生活を営む上で欠かせないものです。したがって、簡単なあいさつすらきちんとできない人が、難しい仕事をするなどできません。

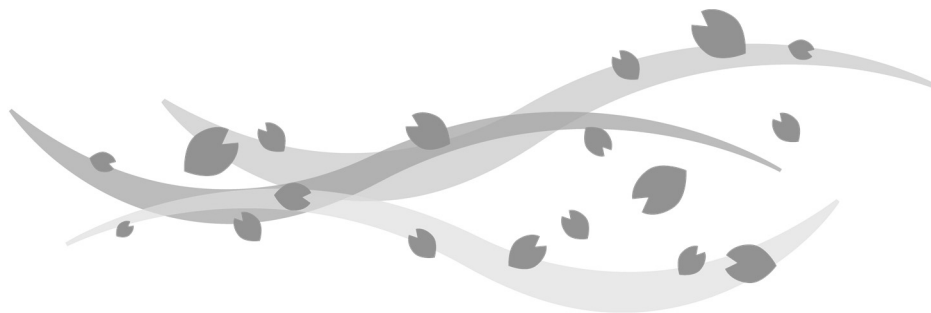
どんなときでも、相手より早く、自ら笑顔であいさつする姿勢を持ち続けることが重要です。あいさつによって、する側もされる側も、気持ちよく一日を過ごすことができます。あいさつをきっかけとした会話で、さまざまな情報や仕事のヒントを得ることができます。あいさつは、より良い人間関係を築く第一歩、あいさつに心を込めることが大切です。

そして、「いつも笑顔で心がけること」。

笑顔でいることで、気持ちも前向きになり、困難な状況にも力を発揮でき、周囲の協力も得られやすくなります。笑顔で心がけるには、「心身共に健康であること」が、何より大事です。ON・OFFのメリハリをつけることで、心身のバランスが保たれ、心に余裕が生まれて、仕事以外の場でも視野を広げられ、それが、仕事にも活かせるようになります。また、気分転換に何か趣味に打ち込むことは、心身のバランスを保つためには、とてもいいことだと思います。

そんな私の気分転換は、高専時代に出会った「バイク」です。入学間もない頃、初めて運転してみた知人のヤマハミニトレ50。音、振動、匂い、なんて面白い乗り物！あっという間にバイクに魅了されました。いどこからもらったスズキマメタン50からスタートした私のバイクライフ。以降、バイクを介した様々な人との出会いも私の大事な財産です。現在、排気量、車種、国内外問わず、5台を所有し、今や私のライフスタイルです。高専に入学してなければ、もしかしたら、バイクとの出会いもなかったかもしれませんね。

「あいさつが基本」、「いつも笑顔で」、「心身共に健康であること」。人生を楽しみながら、一緒に頑張ってまいりましょう！



卒業生・修了生の皆さん、ご卒業おめでとうございます 電気工学科OB 西森 正弘

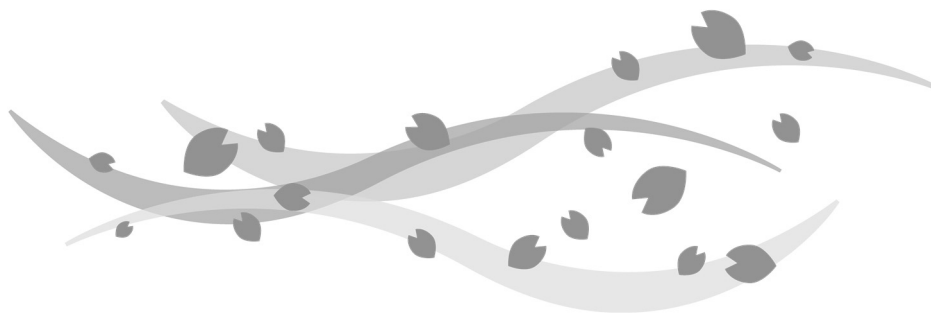
電気工学科E13（1981年卒業）の西森と申します。縁あって、深山会電気工学科理事をやらせていただいております。卒業してから42年が経過し、最初の会社に25年、その後転職して今の会社に15年、現在は再雇用の2年目です。

学生時代から海外に興味を持ち、就職も海外へ行けそうな電気メーカーの子会社に入社することが出来ました。親会社の工場に派遣され、技術を学び、思惑通りに中東からアフリカ、東南アジア、ヨーロッパと様々な国（約20ヶ国）に出張致しました。長くて2年半、短くて3日と業務内容によって滞在期間に違いはあれど、そこで得た経験は何事にも代えがたいものでした。発展途上国が多く生活面でも苦勞することが多くありましたが反面、それらは他の人には経験出来なかった貴重なものであり、現在の私の礎になっています。コロナ禍で、出かけること自体が難しくなり、多くの制限もつきまといますが、就職後に海外出張或いは駐在の機会がある時は経験と見分を広めるためにもそのチャンスを生かして下さい。

私の好きな言葉の中に米国の教育家クラーク氏が日本を去る時に残した“Boys, be ambitious”という言葉があります。皆さんも一度は耳にした言葉だと思います。ご存じの通り「少年よ、大志を抱け」という意味です。辞書を引くと大志、野心と書いてあります。コロナ禍でなおかつウクライナ危機もあり世界経済に大打撃を及ぼしている中で、大志どころではないと言われるかもしれませんが、まずは小さな希望、夢を叶えていくことから始めてはいかがでしょうか。段々と大きな野望に近づいていけばいいのです。その過程では失敗もあれば、頓挫することもあるでしょう。失敗は成功の元、原因分析の後には、次こそはの精神で立ち向かって突き進んでみて下さい。

私が今、最も憂慮、懸念していることの一つは地球の気候温暖化です。気候温暖化の影響で猛暑日の増加、ゲリラ豪雨、洪水、線状降水帯の発生など今までには見られなかった現象が度々発生しています。それらによる被害も甚大なものになってきています。国際会議（COP27等）でも話し合われてはいますが、個人で出来ることはないものかと考え、なるべく車には乗らないことだと思い実践するようにしています。会社には片道30分を徒歩で通勤し、休日は自転車で移動、なるべく車を使わないように心掛け、5年ほど続けています。健康にもいいですし、地球環境にも優しいと感じています。些細なことでも結構ですので、皆さんも地球の温暖化防止につながることを実践してみてください。環境問題に取り組む企業は確実に増えており、如何に二酸化炭素の排出を抑えるかがカギとなっています。経済発展と地球環境の好転化を両立させることは大変難しく厳しいことですが、積極的に取り組んで過ごしやすい社会を実現することを希望しています（裏を返せば産業革命以降の我々世代が環境問題をないがしろにし、経済発展だけを追い求めた結果が地球温暖化を招いたことは間違いなくその一員である私も責任をひしと感じています）。

デジタル化が浸透し、AIが普通のように使われ、扱う情報量も莫大となり、それを咀嚼していくのも大変になってきています。時代の流れがあまりにも急すぎて、ついていけないと感じています。そんな時こそ一休みです。空いた時間に一休み、そして首を回す、肩を上下させる等々の脱力運動をしています。仕事に従事するようになるとストレスを軽減させる、発散させることが大切です。休日は思いっきり楽しんでリフレッシュして下さい。何かと忙しい現代社会、仕事に埋没することもあるでしょうが一区切りついた際には、大いに楽しんで下さい。社会に出て皆さんが健康に留意され活躍されることを期待しています。



コロナと息子に向かい合った3年間

西都・児湯支部 吉丸 和弘

息子は建築学科の3年生です。3年前の4月にふるさと西米良村を離れ、自分の夢に向かってスタートした矢先、新型コロナウイルス感染症が流行し学校が閉鎖。自宅でのリモート学習を余儀なくされました。

西米良村は、宮崎県の中央部最西端に位置する人口約1000人の山村です。高齢化率は42%を超す超高齢化社会を迎えた村ですが、「西米良温泉ゆた〜と」や「おがわ作小屋村」等の観光施設、清流一ツ瀬川でのキャンプや釣りを楽しみに多くの観光客にお越しいただきます。村内に高校はなく、中学校を卒業と同時に親元を離れ高校で寮生活になるのが一般的で、親も子も心の準備をしながら、その時を迎えます。我が家も例外ではなく、息子と離れて生活をする寂しさを感じながらも、都城高専で夢を現実にするため多くの事を学んでくれることを願いつつ送り出しました。

入寮し優しい先輩と相部屋になり、楽しい学校生活が始まると思っていたのですが、すぐにコロナの流行により学校が閉鎖したため、自宅からのリモート学習に切り替わりました。それからの2年間は学校の閉鎖が多く、学校は開いても寮は閉鎖したままという期間もあり、息子は自宅の部屋に閉じこもりきりの生活になってしまいました。昼夜は逆転し、思うように学力が伸びず、無事に進級できるのか不安になった時期もありました。親である私も、息子の生活を見ながらイライラや将来への不安も募り、言い合いになる事もありました。

このままではいけないと考え、私は大きく深呼吸し考え方を変えることにしました。本来であれば息子とは一緒にいられない時期にいられるのだから、家族の時間を大切に楽しもうと考えたのです。息子と一緒に趣味に鮎突きがあります。2mほどの竹の先に刃をつけてモリを作り、川に潜って鮎をモリで突いて獲ります。夏は仕事が終わってからはほぼ毎日息子と鮎突きに行きました。コロナ感染のリスクもありませんし、毎日一緒に川に行くことで会話も増え私の

イライラもかなり減りました。生活のリズムも幾分かよくなったと思います。

しかし、学力は相変わらず低迷していました。2年生の期末、微分積分の再試験を受けることになっていた時のこと。再試験の前日「どうせ単位落とすから受験はしたくない。」と母に言ったそうです。そんな状況を救ったのは、大学受験を終えて帰宅していた長女でした。試験の前日、出題範囲を一緒に確認し、分からないところを教えてくれました。もともと息子は数学に強いので、すぐに頭に入ったのでしょう。何とか3年生に進級してくれホッとしました。

3年生になり「withコロナ」の世の中になりつつあり、学校にも通常どおり通えるようになりました。息子は学校に通い先生方から指導いただく中で、大学に編入し近代建築を学びたいという新たな夢ができたようです。私もその夢を応援しながらも心の中では、「この成績では・・・」という悲観的な事を考えていました。しかし、しっかりと寮生活をしながら学校で学び同級生と切磋琢磨できる学校生活は、息子を急速に成長させてくれており、テストがあればこれまでの成績は何だったのかと思わせる点数を取ってきてくれるようになりました。今では、息子の夢が私たち親の夢にもなっています。

コロナで多くの行事や学業を我慢したり、閉塞感ある不安な日々を過ごしてきましたが、その期間があったからこそ、家族の絆が強まったり、息子は将来に向かって頑張りたい気持ちが強くなったのかもしれない。これからもコロナに悩まされることはあるかもしれませんが、将来へ向けた試練の一つだと捉えて前向きに頑張ってほしいと考えています。



タイトルは自由に決めてください

宮崎県北支部 金子 政二

息子に高専を選んだ理由は?と尋ねると、推薦合格すれば学校で一番最初の合格者になれるからと、そう言ってはぐらかされた。中学の成績は常にトップクラス。オヤジの教育方針の賜物だ。息子には感謝してもらいたい。いや、絶対に感謝してもらわないと困る。息子には、何に対しても自由にさせていた。やりたいことにブレーキをかけさせた事はない。実際、坂道で自転車のブレーキをかけずに植木にダイブした事もある。決め事はいつも本人が納得の上で、本人が決める。そんな息子の選んだ人生初のお受験、推薦入試の結果は、「不合格」。オヤジはショックで食事も喉を通らないくらいに落ち込んだ・・・はずだ。推薦入試には落ちたが、息子の意志は固く、本試験で希望通り建築学科へ合格していった。オヤジは最高に嬉しかった事を覚えている。「ハグしてやれ」と嫁に言ったが、「するかボケ」と笑って一蹴された。

入学後は、寮生活が始まり、まもなく野球部に入部。おいしい寮食にも恵まれ、息子は、すくすくとスポーティなボディに変身していく。親元を離れ、ものの見事に「自由」に染まっていく。同室の先輩には良くしてもらったようで、帰寮時の車中の会話はその話で盛り上がった。なんども話題に上がったこの先輩は、高専生らしいというか、大人と接する姿勢が、ああ〜この子できる子。という感覚があった。話の受け答えも自然体で、自律していた。間違いなくこれまで私の周りにはいないタイプの好青年だった。中でも、入寮時の先輩のおもてなしは、私の記憶にも鮮明に残っている。息子を見守り、持ち前の立派な「自由度」をさらに磨き成長させてくれた事にとて

も感謝している。ありがとう先輩。

4年生になり、ちょっと最近自由過ぎないかと、思えてきた。ふと、あの時悔しかった推薦入試の結果が、今では逆に納得できる瞬間がある。学業の成績は悪くは無い。むしろ良い方だろう。それもこれもオヤジのおかげ。息子よ、感謝しろ。冗談はこのくらいにして、息子には、高専学業、寮生活に関係する皆さんすべてに感謝の気持ちをもって行動してほしいと思っている。「自由っぽく」振る舞っているのは周りの見えない協力があって出来ている事を知ってほしい。部活動でも、通生保護者、寮生保護者、皆さんに温かいご理解とサポートを頂いた。試合の送迎、諸々の準備等々すべてご献身的に行って頂いた。本当に感謝している。私自身、地元延岡の小さな地域での人付き合いしかした事がなく、上手な方でもない。息子の高専生活を通じて、色んな地域の方や高専生の保護者との出会いがあった。ありがとう息子。感謝する。卒業までには1度で良いので部活動保護者の皆さんとお酒を酌み交わしたい。

最後に、ひとりの保護者として関係する皆さんに感謝している。高専牧場に息子を野放しにしても安心できている事に。この場をかりてお礼を言いたい。

ありがとうございます。皆さん。そして卒業できるその日まで、どうぞ皆さん各々の困難に負けることなく、頑張ろう。

友人と共に

西都・児湯支部 河野 康典

「第一志望は都城高専にします」

中学3年の最終決定時の三者面談で、娘が進路を決めて3年が経とうとしています。ずいぶん悩んで、気になる進学先のオープンスクールにはすべて参加し、娘が自分で納得して進路を決めました。志望先が決まりほっとした反面、まさか高校生活の始まりと共に家から巣立つことになるとは考えてもみなかったので、自立していく娘に嬉しい様な寂しい様な気持ちで泣きそうになったのを今でも覚えています。

そしてコロナと共に始まった高校生活。入学式してすぐに寮から自宅に戻り遠隔授業が始まりました。1年生の間はほとんど家での遠隔授業。慣れないパソコンを扱いレポートを作り、資料をコンビニでコピーし提出期日を間違えないように見落とさないようにと悪戦苦闘しながら過ごしました。身近に知り合いも親子でほとんど居らず、解らないことだらけだったので、手探り状態の毎日でした。しかし、自分が勉強したくて選んだ学校です。遠隔授業を受けながらも自分で教科書を見て解いて、設計図の線を引いている娘の一生懸命に頑張っている姿に感動しました。

ただ地元の同級生との学校生活との違いにも矛盾を感じ、悩んでいる姿を見て親としては娘に笑って学校生活を送って欲しいだけなのに何もしてあげることが出来ず、もどかしい毎日でもありました。「みんな一緒。みんな我慢してるんだから。」この言葉をとてもではないけど娘の耳には入れたくなく、私自身も言われたくない言葉で本当に辛かったです。

そして、後期に入りようやく寮に戻りました。うまくやっていけ

るのか、仲良くできるのか内心心配していましたが、子供達はあっという間に仲良くなり、すぐに10月生まれの娘の誕生会を開いてくれました。送ってくれた写真にはにっこり笑った娘が写っており、高校生らしい生活がやっと少しだけ送り始められているようでした。学校生活から寮での生活まで長い時間を共に過ごしているからこそ、お互いの事を尊重しあい助け合っている仲間は大切に、すごく素敵なことですね。

そして、寮生活を通して、家では学べない色々な事を学んでいるように思えます。例えば、洗濯・掃除・買い物に、お金の使い方や集団生活の難しさなど。これも、困ったときに助け合える先輩や同級生・下級生の皆さんがいるからこそ成長していると思います。

まだまだコロナ以前の学校生活には戻れていない面はたくさんありますが、少しずつ取り戻しながら出来ることを一生懸命やってみていくしかないし、今しか出来ないことを後悔しないように精一杯前を向いて進んで欲しいです。コロナ生活を送ってきた3年間があったからこそ勉強も生活面も解らないことだらけを乗り越えながら、精神的にも凄く強くなったと思います。高専生活の当たり前がわからない・普通がわからない毎日を過ごした子供達だからこそ新しいこれからの新しい生き方を考える事が出来るのではないのでしょうか？

きっとこれからも学校の先生方、先輩や後輩の皆さんに力を借り、友人達と笑いながら乗り越えてくれるはず。親としては、陰ながら今まで同様支えていこうと思います。

応援演舞に独り勝手に思う事

宮崎県北支部 宮司 貴広

5年前に息子が入学した事で目にした体育祭での応援演舞の衝撃と感動は、今でもはっきりと覚えています。どれだけの期間の準備と練習で、これ程見事な纏まりが生まれ1つの演舞となるのか、興味が尽きませんでした。

それまでは『高専』と言えば『ロボコン』ぐらいしかイメージが無く、あんなに統制の取れた激しい応援演舞は想像だにしていなく、息子のこれからの高専生活に期待が高まりました。

しかし、コロナ禍が起り各種大会やイベント、はたまた学校生活までままならず、自宅にての遠隔授業に親としては、ちゃんとした学力がつくのか、実習とかはどうなるのか、出口の見えない状況には不安しかありませんでした。

そんな状況が2年続き、世間的にも落ち着きを取り戻しつつある中での今年の体育祭。3年ぶりに5年生の各保護者2名だけ、グラウンドでの応援演舞の鑑賞が許されました。その他は相変わらずの無観客開催でしたが、昨年までの事を考えれば大きな前進です。2日後の高専祭では、後援会伝統のカレーうどんの振る舞いも復活して賑わいを取り戻しました。このままコロナ禍以前の日常へと戻ってくれたら幸いです、まだまだ長そうです。

しかしながら、以前の日常は全く別の形へ変化し定着してしまった感も有ります。会議や打ち合わせもズームで行われ、マスク着用が常態化し、必要最小人数での短時間の会食等、我々世代は息苦しさを感じてしまいます。このコロナ禍の中で青春時代を過ごし社会へ出て行く子供たちは、数年後には『ゆとり世代』『さとり世代』と並び『コロナ世代』と呼ばれるでしょう。

外よりも自宅。

仲間より個人。

他人よりも自分。

最近、若い世代に感じる1コマです。

いつの世も、社会を作っていくのはこれから生きていく若い世代です。我々とは違う感性で世界を拓いて行って欲しいと大いに期待しており、私はYouTubeで演舞を観ながらいつも、この子達なら大丈夫だと思えるのです。

息子もあの中の一入だと思えば、とても嬉しく感じます。

寮生活で色々な事を学び、先生方や先輩後輩との交流が、息子を大きく育ててくれました。人生で一番多感な時期に、何を思い、何を感じ、何を捨て、何を得たのか。皆で造り上げ、堂々と披露した演舞に、その答えがあるのでしょうか。その経験を糧に、これからも新たな道を切り開いて行って欲しいと、心から切に思います。



旧学生会長挨拶

『みなさんへ』

建築学科5年 中元 景介



はじめに今年度も沢山のイベントへのご参加ありがとうございました。そして役員として手伝ってくれた学生、先生方、保護者の皆様へ学生を代表してお礼申し上げます。このように文集を書くのも最後なので今回は高専での私の思い出を2つ書かせてください。

1つ目は武田先生に「君は高専の松本潤だね」と言われたことです。あの嵐の一員になれてとてもうれしかったです。完璧に顔だけ見て言っていたので僕の人生で最もジャニーズに近づけた瞬間でした。もし大学でやりたいことが見つからなかったら持前の歌と踊りで生きていけるように僕が嵐を巻き起こします。

2つ目は沢山の学校行事の中心で活動し自分の出した企画が沢山開催できたことです。その過程において多くの人達に協力してもらえることが大切で貴重なことだということを感じました。その人たちの期待を裏切りたくないと何度も自分を奮い立たせてくれました。

このようにこの5年間の私の思い出はくだらないものから貴重なものまでこの紙切れ1枚には収まりきれないですし、その時の流れはとも早く自分の中身は入学した15歳から何も変わってないようにも思えます。しかし、1つ私が大きく成長したと感ずることがあります。それは人に頼れる人間になりました。自分の敵は大体自分です。やりたいことだったり、努力しようと思ったことでも恥ずかしくなかったり、結局長続きしなかったりしますよね。そんな時は周りに公言してみてください。良くも悪くも後に引けなくなります。その作戦で私は高専2年から番数を20番台から1番にした経験があります。このように自分に勝つために周りに協力してもらいましょう。そして周りの人たちに頼られたら助けてあげてください。

最後に私は歴代の学生会長のようにカッコいい言葉で締めようと思いましたが、私の思い出や学んだことからみんなに伝えたい言葉は「ありがとう」それしか言う言葉が見つかりません。本当に支えられればなしの5年間でした。みたいなことを言って好感度を卒業しても狙ってます。

新学生会長挨拶

『逆張り』

建築学科4年 金子 晴飛



みなさん、こんにちは。今年の学生会長になりました、建築学科4年の金子晴飛です。僕自身の今年1年のテーマは「逆張り」です。僕の渾身の「逆張り」で一人でも多くの学生が楽しかったと思える学校にしていきたいと思えます。

ところで皆さんは「逆張り」をしたことがありますか？「逆張り」とは、あえてみんなと違う方を選んだり、いつもとは違う判断をしたりすることです。高専に来たくらいですから、みなさんの中にも少なからず逆張り精神があるのではないのでしょうか。僕自身、結構な頻度でこの「逆張り」を使います。流行りの音楽を避けてみたり、ポッキーの日にインスタにポッキーを上げている人を馬鹿にしたりします。そして、現状の自分を変えるために逆張りを使ったりします。やってみたくらいで失敗が怖くて挑戦できないって思うことがありますよね？そんなときに自分に逆張りをかけて失敗のリスクがある方をとったりします。いつもの自分じゃ選ばない方を選んだりしてみます。すると、自分が思っているよりも上手くいったり、楽しかったりします。想像とは違うことが簡単に起きます。難しいと思っていたことが意外と簡単にできたりします。勿論、「逆張り」の結果、失敗することもあります。逆張りのせいで楽しめたりします。

そんな風に「逆張り」には人をわくわくさせる力があるのではないかと考えています。なので、積極的に去年と同じや例年通りは避けて、新しいことをたくさん企画したいと思えます。ここに書いたことを有言実行しているなって学生みんなに思ってもらえるくらいには頑張ろうと思えます。

最後に、僕自身の今年1年のテーマである「逆張り」に則り、できるだけ学生会長っぽくならないように務めていきたいと思えます。高専に入学してから今まで築き上げた僕の中の学生会長のイメージの逆に行くように頑張ります。

		文 化			
	局長	4 E	有馬 佐恵		
	副局長	4 C	若松 眞寛		
	局員	3 A	今西 友衣菜		
総務	4 A	金子 晴飛	3 A	下酔尾 淳矢	
会長	4 M	瀬戸山 駿太郎	2 M	種子田 峻聖	
副会長	3 C	山下 源	交通安全		
	3 M	遊木 翔成	局長	4 C	松崎 留奈
議長団	2 C	甲斐 健心	副局長	4 A	東 琉喜
	2 E	高橋 翼	局員	3 C	上村 樹一郎
	4 C	鎌田 梨那		3 M	堀之内 泰心
会計	3 A	下原口 治仁		2 E	山元 洋之介
	体 育		監 査		
	4 C	花畑 空大	局長	4 M	森 拓斗
	4 A	溜池 琉人	副局長	4 E	長友 温子
	4 A	峯 昂志朗	局員	3 A	平川 優明
	3 A	甲斐 皓雅		3 M	川添 太志
	3 A	蒲生 駿		2 C	本部 涼渚
	渉 外		広 報		
	4 A	永井 敦子	局長	4 A	雀部 秀真
	4 C	濱田 仁誠	副局長	3 A	花傘礼 桜香
	3 E	新宅 沙和	局員	4 C	山本 望夢
	3 C	村山 世莉奈		3 A	山路 大成
	2 M	川原 尚悟		2 E	園田 大和
	環 境		風 紀		
	4 C	新保 優花	局長	4 C	安岡 麻結
	4 C	武藤 怜真	副局長	4 M	堀切 風音
	3 C	大場 琴未	局員	3 A	金野 大夢
	3 C	横山 遥香		3 M	新福 堇
	2 M	永岡 慶士		2 E	尾崎 琳

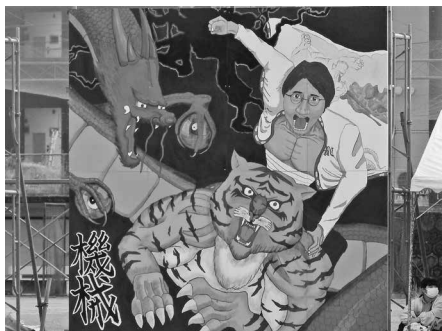
学内トピックス

体育競技会

令和4年11月3日（木）に体育競技会を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため学生と教職員のみでの実施となりましたが、応援演舞のみ5年生保護者の観覧が認められ、当日は体育競技会実行委員の運営で、各競技とも盛り上がりを見せました。

各学科が放課後や休日に多くの時間をかけて、熱心に練習を重ねてきた応援演舞には、見学していた学生・教職員から惜しめない拍手が送られました。また、今年度もご来場が叶わなかった保護者の方向けに、後日、応援演舞の録画配信を行いました。

競技の部総合優勝は機械工学科、応援演舞の部優勝は物質工学科、看板の部優勝は電気情報工学科でした。



看板（機械工学科）



看板（電気情報工学科）



看板（物質工学科）



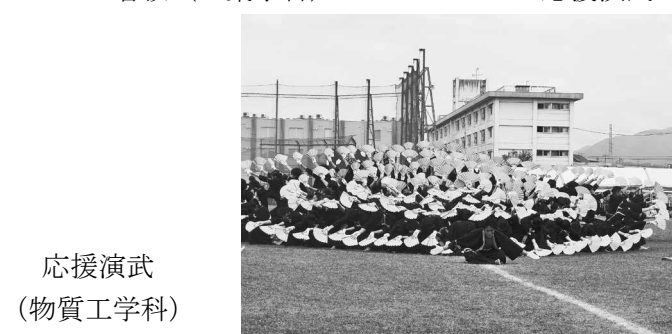
看板（建築学科）



応援演武（機械工学科）



応援演武（電気情報工学科）



応援演武
（物質工学科）



応援演武
（建築学科）



優勝旗授与



騎馬戦

学内トピックス

高専祭

令和4年11月5日（土）、6日（日）に、高専祭を開催しました。今年のテーマは「ibipio」。この言葉には「過去でも未来でもなく今この瞬間を」という意味があります。文化祭実行委員が、新型コロナウイルス感染症対策を施しながら実施可能なイベントについて検討を重ね、「今この瞬間」を楽しむための企画を用意しました。

開・閉会式はオンラインで行い、1年生舞台発表、2年生お化け屋敷、3年生学科開放、4年生研究発表を始めとする各種イベントやコンテストを実施しました。学生による食べ物屋台はありませんでしたが、代わりにキッチンカーが出店し、後援会によるカレーうどんの無料配布も復活しました。高専祭の最後には「きらきらドキドキ打ち上げ花火」もあり、学生や教職員はグラウンドで打ち上げられた大きな花火を間近で見ました。

今年度の各イベントでは、1年生舞台発表と2年生お化け屋敷は物質工学科、3年生学科開放と4年生研究発表は建築学科が、それぞれ最優秀賞を受賞しました。



2年生お化け屋敷



後援会 カレーうどん

オンライン大抽選会

「きらきらドキドキ打ち上げ花火」

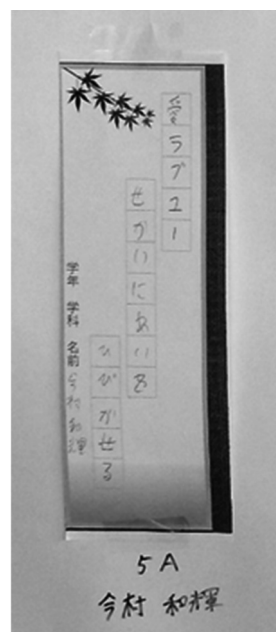
【いじめ防止週間】いじめ防止川柳大会

令和4年10月31日（月）から11月6日（日）は、本校の令和4年度いじめ防止週間でした。

今年度のいじめ防止週間では、5.7.5で作った川柳を募集する「いじめ防止川柳大会」を実施しました。11月5日（土）・6日（日）の高専祭において、学生から応募された川柳を学生課前の入り口に掲示し、来場した学生・教職員の投票を行いました。今年度は、最も良い川柳として、5年建築学科の今村和輝さんの作品『愛ラブユー せかいにあいを ひびかせる』が最優秀賞となりました。



いじめ防止川柳大会



最優秀賞 5A 今村和輝

高専ロボコン2022 地区大会・全国大会

令和4年10月30日（土）に、合志市総合センターにてアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2022九州沖縄地区大会が開催されました。今回の競技名は「ミラクル☆フライ ～空へ舞いあがれ！～」。自作した紙飛行機をロボットが飛ばして、5か所の円形スポット、2か所の縦長滑走路、2種類の筒型ベースの中にランディングさせていく対戦型競技です。本校からは、都城Aチーム「華て！カバッ！」と都城Bチーム「紙回転！福来にゃん」が参加しました。両チームとも残念ながら予選グループで敗退となり決勝には進めませんでしたが、Aチームは今年度より協賛企業となりました株式会社牧野フライス製作所から特別賞をいただきました。さらにAチームは、見る者を楽しませるアイデアが高く評価されて、全国大会に出場することとなりました。

全国大会は、令和4年11月27日（土）に、東京の両国国技館で開催されました。コロナ禍を経て、今大会は3年ぶりに対戦形式での大会となり、地区大会を突破した25高専が国技館に集まり、競技が行われました。全国大会に出場したAチームの「華て！カバッ！」は、メリーゴーランドのような機構から紙飛行機を装填し、パクパクと開閉するカバの口から紙飛行機が飛び出すユニークでかわいいロボットです。試合時間終盤には、カバの足元から大量の紙飛行機が舞いあがり、見る人を楽しませてくれます。

大会では全国からバラエティ豊かなロボットが出場し、ハイレベルな競い合いとなりました。1回戦第5試合に登場した本校チームは、短い期間ながらも重ねてきた練習の成果を発揮し、質の高いパフォーマンスを披露することができました。残念ながら1対0の僅差で1回戦敗退となりましたが、カバの口から飛行機が飛び出すたびに、会場のお客様からたくさんの笑いと拍手をいただきました。

表彰式では、今年度から協賛をいただいている株式会社牧野フライス製作所から特別賞をいただきました。また、特別審査員から、「アイデアは優れているが、その真価を十分に発揮できなかったチームに贈られる賞」として、アイデア倒れ賞も受賞し、全国で唯一のダブル受賞となりました。

来年度の更なる活躍に結びつくよう、技術力の向上に力を注いでまいりますので、今後ともロボット製作局へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

ロボット製作局一同



「華て！カバッ！」



校長報告



全国大会の様子

学内トピックス

第33回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

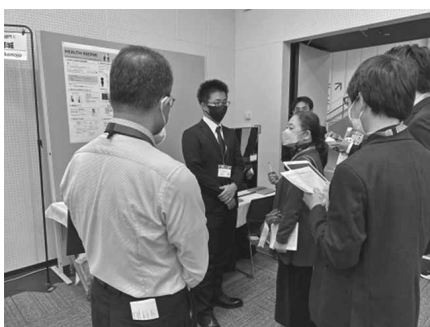
令和4年10月15日（土）・10月16日（日）にGメッセにて「第33回全国プログラミングコンテスト」が開催されました。

今回の大会では、「HEALTH KEEPER」と題して、微表情から体調を推定するスマートミラーを開発してプレゼンテーション及びデモンストレーションを行いました。活発な質疑応答などを通して、審査委員の先生方や来場した多くの企業の方々から高い評価を受け、「特別賞」と「企業賞（セゾン情報システムズ賞）」を受賞しました。

デモンストレーションを行った展示ブースでは開発した製品に対する審査が4回行われ、製品開発に至るまでの経緯、開発中の問題点、さらにはユーザの視点から製品をどのように開発したかを丁寧に説明し、特に来場された企業の方々からは「製品化を実現してほしい」、「この製品を見にブースへ立ち寄った」といったご意見を頂戴し、高評価をいただきました。



発表の様子



デモの様子



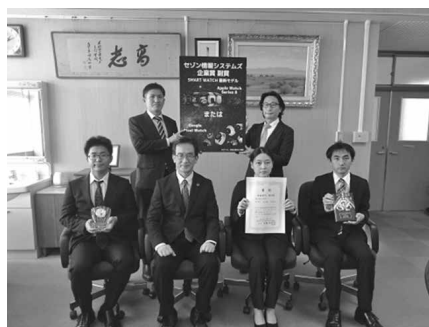
授賞式の様子



プロコン終了後



校長報告①



校長報告②

第10回都城高専おもしろ科学フェスティバル

令和4年11月13日（日）、都城市まちなか広場にて、「第10回都城高専おもしろ科学フェスティバル」開催しました。本イベントは、小中学生を中心とした未来ある子どもに、ものづくりと科学のおもしろさを伝え、地域や世界で活躍できる人材を育成し、少しでも科学技術の底上げに寄与することを目的に実施しております。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、午前・午後の事前申し込み制とし、規模を縮小して実施しましたが、約200名の方々にご参加いただき、すべて盛況のうちに終了しました。ご家族で参加された方が多く、さまざまな実験・工作などのものづくり活動に親しんでいただきました。



ドローンで遊ぼう！



オリジナルシールをつくろう！



エコランカーを体験してみよう！

学生表彰

第59回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会

◎サッカー競技

サッカー部
 栢山 佳生 (5 A)
 片平 力渡 (4 M)
 真田 征侍 (4 E)

第3位
 大会優秀選手
 大会優秀選手
 大会優秀選手

◎剣道競技

男子団体 剣道部
 女子団体 剣道部
 男子個人 安藤 光汰 (5 C)
 女子個人 石塚 千夏 (4 A)
 綾 優貴乃 (4 C)

第3位
 優勝
 第3位
 第2位
 第3位

◎柔道競技

団体 柔道部
 男子個人 66kg級 目良 誠也 (3 E)
 男子個人 81kg級 村永 祐晟 (5 M)

準優勝
 第3位
 第1位

◎陸上競技

やり投げ 森山 大輝 (5 M)
 女子100m 下瀬 彩音 (2 E)

第2位 36m50
 第3位 13秒59

◎バレーボール競技

女子団体 女子バレーボール部

優勝

◎水泳競技

団体 水泳部
 男子200m自由形 白谷 竜琥 (2 E)
 男子400m自由形 白谷 竜琥 (2 E)
 男子100m背泳ぎ 荒殿 大空 (2 A)
 男子200m背泳ぎ 荒殿 大空 (2 A)
 女子50m自由形 尾崎 琳 (2 E)
 女子100m自由形 尾崎 琳 (2 E)
 女子100m自由形 植田 丞美 (5 E)
 女子100m平泳ぎ 尾崎 彩花 (4 C)
 女子100m背泳ぎ 尾崎 彩花 (4 C)
 女子100mバタフライ 植田 旬美 (2 A)
 女子200m個人メドレー 植田 旬美 (2 A)
 男子400mメドレーリレー 荒殿 大空 (2 A)、堀切 風音 (4 M)、
 白谷 竜琥 (2 E)、松田 元気 (2 E)
 女子200mフリーリレー 植田 旬美 (2 A)、尾崎 琳 (2 E)、
 尾崎 彩花 (4 C)、植田 丞美 (5 E)
 女子200mメドレーリレー 植田 旬美 (2 A)、尾崎 琳 (2 E)、
 尾崎 彩花 (4 C)、植田 丞美 (5 E)

準優勝
 第2位 2分04秒71
 第2位 4分33秒61
 第1位 1分01秒68
 第1位 2分12秒05 (大会新)
 第2位 32秒37
 第2位 1分13秒90
 第3位 1分14秒12
 第1位 1分30秒29
 第1位 1分15秒38
 第3位 1分25秒41
 第2位 2分58秒83
 第2位 4分20秒55
 第1位 2分05秒77
 第2位 2分24秒14

◎テニス競技

女子団体 テニス部
 女子シングルス 中原 彩希 (5 C)
 女子ダブルス 中原 彩希 (5 C)、下村 紅羽 (3 A)

優勝
 準優勝
 優勝

第57回全国高等専門学校体育大会

剣道 女子団体 剣道部
 柔道 男子個人 81kg級 村永 祐晟 (5 M)
 水泳 男子100m背泳ぎ 荒殿 大空 (2 A)

準優勝
 第2位
 第1位 1分00秒35

令和4年度宮崎県高等学校総合体育大会

◎水泳競技

男子100m背泳ぎ 荒殿 大空 (2 A)
 男子200m背泳ぎ 荒殿 大空 (2 A)
 男子200m自由形 白谷 竜琥 (2 E)
 男子400m自由形 白谷 竜琥 (2 E)

第1位 1分01秒42
 第1位 2分15秒58
 第2位 2分03秒52
 第1位 4分21秒08



学生表彰

第8回九州沖縄地区高等専門学校弓道大会

男子団体	弓道部	優勝
男子個人の部	柿木 匠 (3M)	第4位
男子個人の部	永野 稜真 (4M)	第5位

第9回全国高等専門学校弓道大会

男子団体	弓道部	優勝
個人	山田 航大 (4E)	射道優秀賞

第17回宮崎県高等学校水泳記録会

男子50m自由形	白谷 竜琥 (2E)	第1位	25秒95
男子100m平泳ぎ	白谷 竜琥 (2E)	第1位	1分09秒81
女子50m自由形	植田 旬美 (2A)	第2位	32秒22
女子50m自由形	尾崎 琳 (2E)	第3位	32秒87

宮崎県高校野球連盟

硬式野球	尾崎 裕亮 (3M)	優秀野球部員表彰
------	------------	----------

令和4年度都城市スポーツ賞

弓道競技 団体の部	弓道部男子	優秀賞
剣道競技 団体の部	剣道部女子	優秀賞
柔道競技 個人の部	村永 祐晟 (5M)	優秀賞
水泳競技 個人の部	白谷 竜琥 (2E)	優秀賞
	荒殿 大空 (2A)	優秀賞
	尾崎 彩花 (4C)	優秀賞

令和4年度宮崎県学生榮譽賞

水泳競技 (個人)	荒殿 大空 (2A)	
弓道競技 (団体)	前田 泰雅 (1E)、山口 竜輝 (1M)、柿木 匠 (3M)、 松下 倖大 (3A)、谷本 暁斗 (1M)	

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2022九州沖縄地区大会

Aチーム	渡辺 巴麒 (4M)、上村 日陽里 (4M)、 「華て!カババッ!」	大迫 琴海 (3M)	特別賞(株式会社牧野フライス製作所)
------	---------------------------------------	------------	--------------------

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2022全国大会

Aチーム	渡辺 巴麒 (4M)、上村 日陽里 (4M)、 「華て!カババッ!」	大迫 琴海 (3M)	特別賞(株式会社牧野フライス製作所) アイデア倒れ賞
------	---------------------------------------	------------	-------------------------------

第33回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

自由部門	野口 芹菜 (AD2ME)、	特別賞
タイトル「HEALTH KEEPER」	財部 駿星 (AD2ME)、 中山 泰佑 (AD2ME)	企業賞(株式会社セブン情報システムズ)

2022年第13回建築甲子園宮崎県予選大会

「始まりの地 ~宿場で交わる人とコミュニティ~」	河野 百笑 (3A)	優秀賞
「PAAC ~まちなかに人がつながる風景をつくる場としての地区センター~」	川野 莉奈 (3A)、松下 倖大 (3A)、東 樹里 (3A)	優秀賞

第48回UMK春のスケッチカーニバル

中・高生の部	郭 龍佑 (1A)	金賞
--------	-----------	----

第6回「発酵を科学する」アイデア・コンテスト

「微生物の力を使ったお弁当」のアイデア	植村 麗奈 (5C)、大橋 翔太 (5C)、吉田 怜矢 (5C)、	優秀賞
	吉田 真琴 (5C)	

令和4年度明るい選挙啓発ポスター・標語書道

高等学校の部(標語書道)	植田 旬美 (2A)	銅賞
--------------	------------	----

高千穂寮トピックス

入寮式

令和4年4月6日（水）に新入寮生の入寮式を行いました。今年度は感染拡大防止のため、入学式に引き続き、第1体育館で開催しました。新入寮生と保護者に向けて、寮務主事による挨拶及び寮生会役員による自己紹介等を行いました。



田中寮務主事による挨拶

寮生会役員の自己紹介

寮祭・寮マッチ代替企画

令和4年6月25日（土）に寮祭及び寮マッチの代替企画（じゃんけん大会）を行いました。寮祭は、屋台の出店や飲食物の提供を自粛する等、感染拡大防止に配慮した上で、実行委員が中心となって企画を検討しました。どちらのイベントも、寮生が楽しめる催しとなりました。



じゃんけん大会の様子



寮祭実行委員

夜間ハイク代替企画

令和4年12月1日（木）に夜間ハイクの代替企画として、寮生会主導でビンゴ大会を開催しました。事前に、2022年に開催されたサッカーワールドカップ日本戦のスコア予想を実施し、予想的中した寮生には追加のビンゴカードが配布されました。後期中間試験終了翌日の開催であったことから、寮生の楽しげな様子が見られました。



ビンゴ大会の様子

高千穂寮講演会

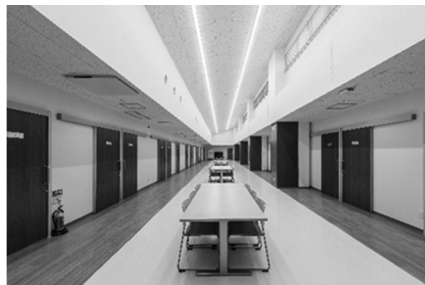
令和4年12月19日（月）に低学年生及び希望する高学年生を対象として、高千穂寮講演会を実施しました。講師は、（一社）霧島工業クラブ専務理事の久保秀夫様にお願ひし、「あなたに夢はありますか？ー卒業を笑って迎えるためにー」と題して、講師のご経歴から、進路選択時に向けて意識すべきこと等、これからの高専生活を有意義に過ごすためのアドバイスをいただきました。



講演会の様子

新管理棟が完成しました

令和4年4月1日（金）に新管理棟の引き渡しが完了し、新たに42室の居室が整備され、食堂・寮事務室が新しく生まれ変わりました。また、9月には研修棟・留学生棟を解体し、駐車場を整備しました。令和5年4月には、建設中の第1棟が完成し、新たに寮生を迎え入れる予定です。



ラーニングスペース

食堂





モンゴル3高専からの学生たちとの交流会

4E ENHKJARGAL NYAM-OSOR

12月6日に本校に所属しているモンゴルの留学生3名とモンゴル3高専から来た学生たち9名との交流会がありました。モンゴルの3高専とは、新モンゴル高専、モンゴル高専、科学技術高専という三つの高専のことです。私はモンゴル人と都城であり会うことがないため、一年半ぶりにモンゴル人といっぱい話できて嬉しく思います。交流会の話の内容はほぼ日本での留学生の生活についてでした。自分の勉強や生活について答えなければならなかった私は頑張ってその学生たちに役に立つように答えました。交流会に参加した学生たちはみんな元気で、笑顔で話してくれたので、楽しく時間を過ごしました。

この交流会に参加することができて一番よかったと思ったことは、モンゴル3高専の学生と友達になることができたことです。モンゴル3高専に一人も友達がない私には友達ができるチャンスとなって、モンゴル3高専について色々聞く事ができる機会があって、モンゴル3高専のことも知ることができてよかったです。日本へ来たのはロボコンとDCONをしている学生でした。その学生たちの話を聞くと、私も追いつかないぐらいすごいことを話していて、私よりも優れている感じがしました。その学生たちの学科は様々でしたが、私と同じ学科の学生もいました。その学生と情報処理についてモンゴル語で色々話して、楽しかったです。また、今回来た学生たちは、日本へ初めて来たという学生が多かったため、日本への感想を聞くと「何でも自動式になっていて非常に便利」「環境が良いので、住みやすい」「ストレスがないまち」という答えが多くあって、私も同意見です。交流会中にモンゴルと日本との違いについて話をして盛り上がっていました。交流会後、SNSを交換して、これからも連絡をとるようになりました。そして、交流が終わったら、学生たちからお土産をもらいました。モンゴルの有名なゴールデンゴビというチョコレート、手紙、キーホルダなどいっぱいプレゼントをもらってしまいました。その手紙に「将来の勉強や就職がうまくいくように」と書かれていて、私にとって頑張る力になりました。また、キーホルダは普通のキーホルダではなくて、ジンギスカンの偶像が映ったキーホルダで、大切に使っています。また、モンゴルからの学生たちと一緒に来た担当の先生は二人とも、うちのMJEDプロジェクトの先輩で、将来のことを聞くチャンスがあって、これからも色々相談できるようになって本当によかったです。最後に岩熊先生から一言をもらいました。その一言の中に、モンゴルに高専という制度を世界で初めて取り入れたボヤンジャルガルさんと岩熊先生がこれからモンゴル3高専の学生たちが勉強しやすくなるように環境をよくしましように話したことを聞いて、嬉しく思いました。私もこれからその学生たちと話したり、相談に乗ったりして色々努力しようと思いました。また、交流会の時、気付いたのは、モンゴル3高専の学生たちがしっかりしていて、すごく頑張っていたことです。質問をちゃんとしたり、自分の考えをよく相手に伝えるように綺麗にまとめて話したりしていて、ちゃんと勉強しているなと思いました。私も頑張って、モンゴルと一緒に発展させるその一部になろうと思って、これからもっと勉強しようと思いました。実は、私はこの間、そんなに勉強できず、なまけていました。そんな私にこの交流会が勉強をする刺激を与えてくれたので、交流会に参加できたことを誇りに思います。



さくらサイエンスで技術交流

ロボット製作局

コロナ禍でさくらサイエンスによる海外学生の招へいを中断していましたが、2022年12月2日～9日の日程で、三年ぶりにモンゴル技術カレッジ高専・新モンゴル高専・モンゴル科学技術大学附属高専から学生を本校に招へいし、本校ロボット製作局の学生と技術交流を行いました。今回のさくらサイエンスの内容は、DCON（ディーブラーニングコンテスト）とABUロボコン（アジア太平洋ロボコン）への出場を予定しているモンゴル高専生9名と引率教員2名が参加して、本校設備を利用したロボットの部品を効率よく製作する実習や、ディーブラーニングを応用したAIモデルの作成を学び、各コンテストで活躍できるよう技術研修を行うというものです。



日本文化に触れるためのレクリエーションでは日南海岸を訪れました。学生たちは、初めて見る水平線を眺めながら地球の大きさを感じているようでした。鶴戸神宮では昨年の台風災害の爪痕が残っており、モンゴルとは違う自然の猛威を実感していました。企業見学では、マトヤ技研工業様にご協力をいただき、モンゴル高専生たちは日本のものづくりの現場を見ることができました。工場内には、クライアントからの特別注文で製作されている特殊な機械設備が並んでおり、学生たちも機械の説明に興味深く耳を傾けて、担当者との質疑応答も盛んに行われていました。

モンゴルの高専では日本語の授業が行われています。本校学生たちとの交流では、学んだ日本語を使って楽しそうに会話をしていました。双方の言葉がわからない時は英語も含めてのコミュニケーションに変わり、ひさびさに実施できた対面での海外交流は、日蒙学生にとって大きな刺激になったと感じています。今後も技術交流はもちろん、グローバルな人材を育成するためにも、海外学生との交流には積極的に参加していこうと思います。

都城高専における「少年少女科学アカデミー」の取組みと成果

少年少女科学アカデミーとは

少年少女科学アカデミーは、小中学生の早期技術者教育およびグローバル人材育成のための小中学校・高専一貫教育システムを構築し実施することを目的として、宮崎県内の小中学校と都城高専の架け橋となるべく、令和元年度に設立されました。

目指すべき波及効果

高専のことを少しでも知ってもらい、また、宮崎県における高専の果たしている役割と重要性を知ってもらおう

本校にマッチした志願者の安定確保

理数系の苦手な学生が近年多いアカデミーの活動を通して、理数系に興味を持つ生徒を増やし、受験者の拡大につなげる

中学生にエンジニアの魅力を伝え、将来エンジニアになりたい生徒を増やし受験者の拡大につなげる

本校学生が小中学生に指導することで指導力の向上につなげ、また、学生自身の勉学へのモチベーションの向上にもつなげる

アカデミーの運営費は、受講料、寄附金、自己資金を財源として、安定財源の確保を図る

安定した財源の確保

本校学生の指導力向上

高専教育の認知と重要性の理解

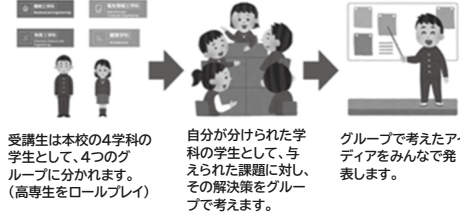
目指すべき波及効果

将来の技術者の裾野拡大

②アドバンスドプログラム

アドバンスドプログラムは、中学生を対象とし、「SDGs」を基盤として、研究者・技術者の視点で自主性や協調性、課題解決力を身につけるためのアイデアを生み出すトレーニング(アイデアソン)を行います。

<アドバンスドプログラムの流れ>



Keyword

- ・SDGs
- ・2050年の日本と世界の未来
- ・宮崎県の産業

<アドバンスドプログラム実施(アイデアソン)の様子>



<受講者が作成したマインドマップおよびプレゼン資料>



受講者アンケート自由記述(抜粋)

- ・問題を見つけてそれをどのように解決していけばいいのかわかる候補の中から選ぶ力をつけることができました。
- ・時間を忘れるほど集中できて、とても楽しかったです。来年もあればまた来たいです。学校ではあまり勉強しないようなことまで考えたり学んだりできたから良かったです。

2019～2022年度の4年間で54名の中学生が受講

過去の実施日程

少年少女科学アカデミーは、①「ベーシックプログラム」と②「アドバンスドプログラム」の2つのプログラムで構成されており、これまで下記日程で実施しています。

【ベーシックプログラム】
2019.6.29～8.23
2021.8.2～11.3

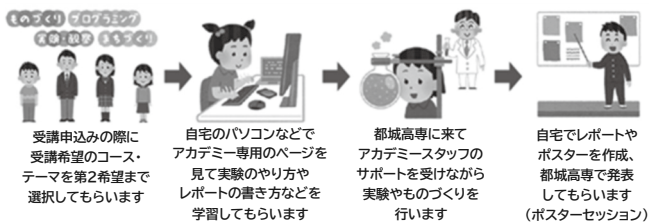
※2020、2022年は新型コロナの影響により開講なし

【アドバンスドプログラム】
2019.12.25～12.27
2020.12.19～12.20
2021.12.11～12.12
2022.12.10～12.11

①ベーシックプログラム

ベーシックプログラムは、小中学生を対象として家庭学習用のe-learningコンテンツ、実験・実習用教育教材及び本校の教育研究基盤を活用し、本校学生と連携して高度な研究体験を行うことができます。

<ベーシックプログラムの流れ>



<ベーシックプログラムの実験・実習の様子>



<ベーシックプログラムの発表会の様子>



2019年度は78名の応募があり、39名の小中学生が受講
2021年度は50名の応募があり、19名の小中学生が受講

広報活動

<専用Webサイト>



<ロゴマーク>



<紹介ムービー(YouTube配信)>



これまでの成果

これまでの受講生のうち、合計30名が入学し、今後、地域との循環型教育が期待される。

今後の展望

自宅学習用e-learningコンテンツや実験・実習用教育教材をより一層充実させつつ、大学や民間企業等とも連携できる仕組みを検討し、また、宮崎県の産業の発展に貢献するためにもアカデミー事業を広くPRし、継続的に実績を積み上げた上で効果検証を行っていきます。そして、コロナ禍においても本事業を継続して実施・発展させていくために、遠隔でも実施できる手法を確立させます。

主な就職・進学内定先一覧（順不同）

本 科					
機械工学科	<p>○アイリスオーヤマ株式会社 ○王子エンジニアリング株式会社 ○京セラ株式会社 国分工場 ○コベルコ・コンプレッサ株式会社 ○株式会社J-POWERハイテック ○株式会社SUBARU ○ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社 ○株式会社タマディック ○有限会社テーブルモダンサービス ○トーテックアメニティ株式会社 ○パナソニック株式会社 ○日本貨物鉄道株式会社 九州支社 ○ファナック株式会社 ○フードテクノエンジニアリング株式会社 ○株式会社メンバーズ ○株式会社安川電機 ○株式会社USEN-NEXT HOLDINGS ○九州大学 ○資生堂美容技術専門学校 ○豊橋技術科学大学 ○都城高専専攻科 ○都城高専専攻科（九大連携教育プログラム） ○都城高専研究生 求人件数 計 595 件</p>				
電気情報工学科	<p>○株式会社アイ・エス・ビー ○ウナルステクノロジー株式会社 ○SCSKニアショアシステムズ株式会社 ○王子エンジニアリング株式会社 日南事業部 ○関西電力株式会社 ○株式会社九州大真空 ○九州電力株式会社 ○京セラ株式会社 鹿児島川内工場 ○京セラ株式会社 鹿児島国分工場 ○京セラコミュニケーションシステム株式会社 ○株式会社共立電機製作所 ○株式会社興電舎 ○Japan Advanced Semiconductor Manufacturing株式会社 ○西部電機株式会社 ○株式会社大真空 ○東京エレクトロン株式会社 ○株式会社日本触媒 ○トータルテクニカルソリューションズ株式会社 ○西日本電信電話株式会社 ○日本空港テクノ株式会社 ○パナソニック株式会社 ○株式会社ファインディックス ○株式会社FIXER ○株式会社富士通鹿児島インフォネット ○三島光産株式会社 ○三菱電機ビルソリューションズ株式会社 ○森トラスト・ビルマネジメント株式会社 ○レンゴー株式会社 ○ローム・アポロ株式会社 ○熊本大学 ○千葉大学 ○長岡技術科学大学 ○都城高専専攻科 求人件数 計 632 件</p>				
物質工学科	<p>○アイリスファインプロダクツ株式会社 ○旭化成株式会社 ○出光興産株式会社 ○鹿児島県農業共済組合 ○京セラ株式会社 鹿児島国分工場 ○沢井製薬株式会社 ○キリンビール株式会社 福岡工場 ○サントリープロダクツ株式会社 ○DIC株式会社 ○住友精化株式会社 ○第一三共プロファーマ株式会社 ○ダイキン工業株式会社 ○大日精化工業株式会社 ○東洋インキSCホールディングス株式会社 ○日東電工株式会社 ○バクスター株式会社 宮崎工場 ○久光製薬株式会社 ○株式会社三井化学分析センター ○ラピスセミコンダクタ株式会社 宮崎工場 ○鹿児島大学 ○長岡技術科学大学 ○宮崎大学 ○都城高専専攻科 求人件数 計 252 件</p>				
建築学科	<p>○株式会社一条工務店 ○株式会社イリア ○極東興和株式会社 ○霧島エンジニアリング株式会社 ○株式会社ザイマックス ○三精テクノロジーズ株式会社 ○株式会社志多組 ○西部電機株式会社 ○株式会社第一ヒューテック ○大和ハウス工業株式会社 ○大和リース株式会社 ○東急建設株式会社 ○日本国土開発株式会社 ○株式会社増田工務店 ○三菱地所コミュニティ株式会社 ○宮崎市役所 ○大和開発株式会社 ○株式会社LIXIL ○熊本大学 ○豊橋技術科学大学 ○都城高専専攻科 ○武蔵野美術大学 求人件数 計 309 件</p>				
専 攻 科					
機械電気工学専攻	<p>○株式会社京三製作所 ○極東開発工業株式会社 ○千代田化工建設株式会社 ○テルモ株式会社 ○東京エレクトロン株式会社 ○株式会社LIXIL ○九州大学大学院 ○筑波大学大学院 ○北陸先端科学技術大学院大学 ○都城高専研究生</p>	物質工学専攻	<p>○旭化成株式会社 ○久光製薬株式会社 ○宮崎エプソン株式会社 ○大阪大学大学院 ○九州大学大学院 ○東京工業大学大学院</p>	建築学専攻	<p>○大和ハウスリフォーム株式会社 ○戸田建設株式会社 ○日本国土開発株式会社 ○三菱地所コミュニティ株式会社 ○都城市役所 ○熊本大学大学院</p>

専攻科全求人件数 計 1,598 件
 （令和4年12月末現在）

都城工業高等専門学校校歌

作詞 清水 徹
作曲 海老原 直

Moderato
mf con spirito

(1)ぎょう うおか んきき はれい 一きわ ゆしね るをに きつう 一りたる 一しえわ 一またし 一のるく みふま

ねるた みきお ねみお とやし 一おく 一くにも ああさ おたき 一ぎらに 一つしお 一つきう たこみ

かうや きがま りくき そのり うみし にちま あきか くわた 一がめど るんり るとて こつひ こどろ ろしく もしゆ きわた よけき わはき かっやう どく のの ゆこは

めこな はろは ぐとひ くわら まさか 一んの まま ななな びび 一やや 一ぞぞ あ

あ こう せーん み や この じょう (2)とた (3) じょう

三 高き岩根に美しく
また雄々しくも咲き匂う
みやま霧島かたどりて
広く豊けき教養の
花は開かん学舎ぞ
ああ高専都城

二 遠き歴史を伝えたる
古き都に新しき
工学の道極めんと
集いしわれら八百の
心と技術の学舎ぞ
ああ高専都城

一 暁雲映ゆる霧島の
峰々遠く仰ぎつゝ
高き理想にあくがるる
心も清き若人の
夢はぐくまん学舎ぞ
ああ高専都城



独立行政法人国立高等専門学校機構
都城工業高等専門学校
National Institute of Technology (KOSEN), Miyakonjo College

〒885-8567 宮崎県都城市吉尾町473番地の1
TEL (0986) 47-1107 FAX (0986) 38-1508
URL <https://www.miyakonjo-nct.ac.jp/>

